フィリピン国 家族計画・母子保健プロジェクト() 運営指導調査団報告書

平成 12 年 1 月

国際協力事業団

医療協力部

医	協一
J	R
00	- 09

No.

序 文

フィリピン国家族計画・母子保健プロジェクト(フェーズ2)は、1997年4月1日から5年間 の協力期間において、リージョンの家族計画・母子保健活動の改善を目的として協力が開始さ れました。

このたび、協力期間2年半あまりの時点でこれまでの活動を確認し、本プロジェクトにかかわ る専門家とカウンターパートに必要な助言を提供し、また、本プロジェクト当初の目標を達成す るために必要な事項をフィリピン側関係者と協議するため、国際協力事業団は、1999年11月28日 から12月3日までの日程で、京都大学大学院医学研究科教授中原俊隆氏を団長として、運営指導 調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査団の調査結果を取りまとめたものです。ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表します。

平成12年1月

国際協力事業団

理事 阿部 英樹







Nutrilincの前にて



ルバオ Rural Health Unit (RHU) にて



ルバオRHU内風景



ルバオ Barangay Health Center (BHC) にて



.

ルバオBHC内風景



合同調整委員会



ミニッツ署名・交換

地図:フィリピン共和国





目 次

序 文					
写《真》(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(
地 図					
1.運営指導調査団派遣 1					
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的1					
1 - 2 調査団の構成					
1 - 3 調査日程					
1 - 4 主要面談者					
2.総 括					
3.プロジェクトの進捗状況					
3 - 1 地域保健分野					
3 - 2 視聴覚教育分野					
4.協議概要					
4 - 1 概 要					
4 - 2 所 感					
附属資料					
ミニッツ					
先方プレゼンテーション資料24					
湯浅リーダー報告					
田口専門家(IEC)報告					
岩永専門家(家族計画・母子保健)報告					
小村専門家(母子保健)報告					
佐藤専門家(WID/啓蒙普及)報告					
合同調整委員会出席者					
投入実績					
1998年度プロジェクト年間報告					

母子健康手帳 111

1. 運営指導調査団派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

フィリピン共和国(以下、フィリピン)の乳児死亡率・妊産婦死亡率等の健康指標はアセアン の中でも中位~低位に位置しており、人口増加率も人間開発中位国の平均値を大きく上回る水準 にある。このようななか、わが国はフィリピンに対し、1992年4月から5年間の協力期間で、ル ソン島中部のタラック州において家族計画・母子保健活動の改善を目的としたプロジェクト方式 技術協力を実施した。その結果、家族計画・母子保健サービスシステムの向上、地域住民の 参加による地域保健活動の強化、研修・視聴覚教材を通じた保健サービス従事者の能力向上等 の成果が得られた。そこで、フィリピン政府は、タラック州において開発されたモデルの成果 を、タラック州が属するリージョン (ルソン島中部)全体に波及させるための新たな協力を要 請してきた。

これを受けてわが国は、1997年4月から5年間にわたりプロジェクト方式技術協力を実施する こととした。今回は、プロジェクト開始から2年半あまりを経過した現時点で、中間評価的な位 置づけからこれまでの進捗状況のレビューを行い、今後の方向性も含めて先方と協議を行うた め、11月28日から12月3日まで運営指導調査団を派遣することとした。

1-2 調査団の構成

	担当	氏	名	所 属
団長	総 括	中原	俊隆	京都大学大学院医学研究科教授
団員	地域保健	菅波	茂	アジア医師連絡協議会(AMDA)代表
団員	視聴覚教育	内海	成治	大阪大学人間科学部教授
団員	協力計画	金子	智雄	国際協力事業団医療協力部計画課職員

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務			
1	11 / 28	日	13:10 中原団長・菅波団員マニラ着(関空発 TG621)			
			 13:25 内海団員・金子団員マニラ着(成田発 JL741)			
2	11 / 29	月	J I C A 事務所表敬			
			マニラからサンフェルナンドへ移動			
			リージョン 保健局次長表敬			
			プロジェクト専門家との打合せ会議			
			サンフェルナンドからスービックへ移動			
3	11 / 30	火	スービックからザンバレスへ移動(フィリピン祝日)			
			Aeta Resettlement Hospital視察			
			ザンバレスからアンヘレスへ移動			
4	12 / 1	水	合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)			
			青年海外協力隊活動視察(Nutrilinc JOCV Community Activity)			
			フロントライン計画の青年海外協力隊員との打合せ			
5	12/2	木	ルバオRural Health Unit(RHU)視察			
			ルバオBarangay Health Center(BHC)視察			
			バタアンからマニラへ移動			
6	12/3	金	ミニッツ署名(於:保健省)			
			14:45 内海団員・金子団員マニラ発(成田着 JL742)			
			16:30 中原団長・菅波団員マニラ発(関空着 TG620)			

1-4 主要面談者

- (1) フィリピン側関係者
 - 1) 保健省(Ministry of Health) 関連

Dr. Milagros L. Fernandez Undersecretary for Office for Public Health

Services

- Dr. Ethelyn P. Nieto Director , Regional Health Office
- Dr. Gloria Punzalan Regional MCH Coordinator, Regional Health Office

Dr. Ruben Roque Provincial Health Officer, Bataan Provincial Health

Office

Dr. Eduardo Valencia Provincial Health Officer, Bulacan Provincial Health Office

Dr. Ernesto Santos	Provincial Health Officer, Pampanga Provincial Health
	Office
Dr. Felicisimo Embusucado	Provincial Health Officer, Nueva Ecija Provincial
	Health Office
Dr. Ricardo P. Ramos	Provincial Health Officer , Tarlac Provincial
	Health Office

2) 国家経済開発庁(NEDA)関連

Ms. Aurora Joson	Chief, Economic Development Specialist, Region
Mr. Victor Valencia	Division Medical Officer, Department of Education,
	Culture & Sports, Region
Mr. Marcial Terrado	Regional Director, Commission on Population,
	Region
Mr. Rodolfl Feraren	Regional Director, Department of the Interior &
	Local Government, Region
Ms. Myrna Apostol	Chief, Department of the Interior & Local
	Government, Region
)NGO関連	

3) NGO関連

Dr. Luz Revita-Cruz	Children & Medical Center Philippines/Project
	Director, Pinaod Community Comprehensive Health
	Clinic
Ms. Esther Mmali-Calalang	President, Samahang Kababaihan Ng Gatbuca sa
	Kaunlaran (SKGK)
Ms. Aleja Beljamin	Philippine Rural Reconstruction Movement, Bataan
	Branch
Mr. Ernesto Rosales	Philippine Rural Reconstruction Movement, Bataan
	Branch
Ms. Rosemarie Herrera	Executive Director, Nutrilinc

(2)日本側関係者

- 1) J I C A フィリピン事務所
 - 小野 英男 所長
 - 吉田 友哉 所員
- 2) プロジェクト専門家

山田 智康

高村 聖子

井上 律子

- 湯浅 資之 チーフアドバイザー 成瀬 章 調整員 田口 明男 IEC専門家 岩永 資隆 家族計画・母子保健専門家 小村 陽子 母子保健専門家 佐藤 祥子 WID/啓蒙普及専門家 3) 個別派遣専門家 山下 哲雄 開発福祉支援専門家 4) 青年海外協力隊
 - 人口家族計画フロントライン計画シニア隊員
 - 人口家族計画フロントライン計画隊員
 - 人口家族計画フロントライン計画隊員
 - 西村三由紀 人口家族計画フロントライン計画隊員

2.総括

1999年11月28日から12月3日まで、マニラ市およびリージョンを訪問し、家族計画・母子保 健プロジェクト(フェーズ2)の現状の視察、カウンターパートとの懇談、フィリピン保健省代 表者とのミニッツの署名・交換等を実施した。

本プロジェクトの特徴は、家族計画・母子保健を中核とした地域保健の住民自身による向上活動にあるが、フェーズ2においては、フェーズ1におけるタラック州での成果を維持、発展させつつ、それをリージョン 全体に広げていくことが課題である。また、本プロジェクトは実施期間5年間の半ばにあり、残された期間でプロジェクトのまとめを行う必要がある。

プロジェクト実施体制については、フェーズ2の発足以来、日本側においては、2州ずつを担 当する長期専門家3人が3カ所に別れてオフィスをもち活動する「ゾーンディフェンス」方式が 実施され、それを統括するリーダーはリージョンの首都に本拠を構え、秘書として人口委員会 の旧有力メンバーを雇用している。また保健省には業務調整員および長期専門家が2カ所のオ フィスをもって活動するという体制が整えられ、これによりタラック州における成果をリージョ ン内に拡大発展させるという目標は名実ともに達成が見込める体制となっており、さらに青年 海外協力隊員による草の根レベルの活動がそれを補助している。しかし、本年度に入り、リー ダーおよび業務調整員が相次いで交代し、また医師の長期専門家の交代が来年に予定されてお り、その実施体制の新たな構築が必要となっている。新しいリーダーは着任以来この点には腐心 しており、新たな医師の長期専門家には、パンパンガ州でプロジェクトの課題となっている、双 方の国民の参加やNGOとの連携などをも含む地域病院等の地域開発型活動に中心的な役割を担 う人材として参画させている。また、現在の助産婦およびWomen in Development (WID)専 門家の2人の長期専門家のほか、新たな地域保健担当の長期専門家を得て、ゾーンディフェンス 体制によるリージョン 内の活動をさらに発展させようとしている。この方向性はきわめて妥当 なものであると考える。

無償資金協力として各州立病院母子保健センター、Rural Health Unit(RHU)、Barangay Health Station(BHS)の新築等がすでに決定され、実施に移され、フィリピン側の活動意 欲を高めている。母子保健センターは、母子に関する相談や健康教育活動等を含む基本的なサー ビスを総合的に供給するものであり、州立病院に併設されるのが基本となっている。タラック州 では、妊娠の経過や子供の成長のモニタリング等を実施する場として、また助産婦の教育や第一 線のバランガイヘルスワーカーの知識および技術の向上を図る活動、栄養教育活動等に利用さ れ、すでにカウンターパート側の活動として定着している。母子保健センターは目に見えるプロ ジェクト活動としてきわめて重要であるといえる。母子保健センターでの活動要員の研修には、 バギオ市に所在するアンダーファイブクリニックの果たす役割は大きいと考えられる。すなわ ち、母子保健センターの活動の基本は、乳幼児の発育・発達のフォローであり、また母乳育児の 推進、適切な離乳食指導や家族計画指導などであり、当該施設ではその模範となり得る活動がす でにフィリピン側の努力により完成し、かなりの歴史をもっている。各州立病院における母子保 健センターの活動にアンダーファイブクリニックのノウハウを生かすことが重要であろう。ま た、RHUやBHSの新築は、目に見える援助としてきわめて重要であり、積極的な推進が望ま れる。

本プロジェクトは、家族計画・母子保健を中核に地域保健全体の向上を視野に入れた活動(地 域協同薬局活動、TV 99、Teatro 99、バランガイヘルスワーカーや助産婦の研修、NGOと の連携など)により、他に誇り得る成果をあげていると考えられるため、その経過や手法、評価 等について学術的な報告を行い、そのノウハウの蓄積および公表を行っていくことが重要であ る。たとえば、地域協同薬局活動(ボティカ・ビンヒ)については、プロジェクトのみならず、 青年海外協力隊隊員によってもその活動の地方への普及が図られ、すでに各地のバランガイにお いて実施され、多くの場合、その運営は順調で、余剰金の使途について議論される段階に達して いる例もみられるほか、他州のバランガイに対してタラック州住民が住民指導を行っているな ど、諸外国における類似の活動にきわめて大きな示唆を与え得ると考えられる。母子健康手帳の 導入活動も同様、他に範になるものである。家族計画・母子保健キャンペーンおよびInformation, Education and Communication(IEC)活動としてのTV 99活動およびTeatro 99活 動は住民教育の手段としてきわめて有効であり、住民からきわめて高い支持を得ている。こと に、Teatro 99活動は住民自身の創意工夫による人形劇であり、その実施は住民自身の積極的参 加が基本であるため、住民の能動的な健康教育活動として高く評価されるべきものである。住民 参加型の健康教育活動は、きわめて高い効果が期待されるため積極的に推進されるべきであり、 一方ではその効果を調べるための調査研究活動を実施し、その結果を学術的に公表するなどによ り、他への普及を図るべきであろう。本プロジェクトは地域における草の根レベルの保健活動の ソフトウェアの創出に取り組んできたということができ、本プロジェクトの成果は、国際協力研 究論文として、積極的に公衆衛生関係学術誌や国際協力関係学術誌に投稿し、国際協力のノウハ ウの蓄積に貢献し、国際協力に携わる人々と知識・経験を共有するようにすることが望まれる。

本プロジェクトでは、青年海外協力隊との協力を当初から掲げており、すでに良好な協力関係 が維持されている。フェーズ2においても、すでに青年海外協力隊隊員の協力により住民の教育 活動等が進んでおり、その活動は本プロジェクトと相互に補完しあうものであり、青年海外協力 隊隊員の活動を積極的にサポートし、さらに良好な協力関係を維持していくことが重要である。

本プロジェクトは、従来からODAの各種スキーム(青年海外協力隊、無償資金協力、 UNFPA等との連携、草の根無償資金協力等)を積極的に取り込んできたことに特徴がある が、今後もさらにさまざまなODAスキームを統合したパッケージ協力や、地方自治体やNGO を通じた国民参加型の協力等を推進すべきである。

本プロジェクトでは、当初から、家族計画・母子保健の知識・情報を効果的かつタイムリーに 提供するため、IEC教材の開発が行われてきているが、その蓄積も多くなってきており、その 内容も評価できるものが多々あるため、これらの教材をUNFPAなど他のドナーに供与するな どの方策をとることにより、さらにその普及を図ることが重要である。

また、プロジェクトのまとめを行っていく方向性について、学問的見地からも積極的な対応が 計画されている。ことに、プレシード・プロシード・モデルの導入を図って評価を行うことを計 画している点は、きわめてユニークなものであり、今後の同種のプロジェクトの評価方法に多大 の示唆を与え得るものとして期待される。これらの評価活動は主に短期専門家の力添えを得て実 施していくこととなろうが、フェーズ1においてベースラインサーベイをフィリピン大学に委託 して実施したように、フィリピン側の研究機関の活用も重要である。また、評価活動にも住民の 参加が望まれる。評価の過程に住民を参加させることは、このプロジェクトの成果がいかに優れ たものであるかを認識させ、住民が以後も自分たちの活動としてこれらを継続していく意義を自 覚させ、それを実施していく自信を与えることができるからである。

3.プロジェクトの進捗状況

- 3-1 地域保健分野
 - (1)家族計画・母子保健サービスの向上について
 - 1) WIDに男性も積極的に対象とする試みは評価されるべきである。
 - 2)現場において見聞する家族計画・母子保健に関する住民の知識および実践に関する 初歩的状況をいかに打破および実現させるかという困難さ。
 - 3) 家族計画・母子保健の啓蒙普及の現場における担い手となる助産婦およびバランガ イヘルスワーカーの不十分な理解度に対する基礎的研修強化の必要性。
 - 4) 母子保健における妊産婦・乳幼児検診に必要な上記両者の研修強化に加えて、母子 健康手帳の持続的配布および体重測定計等の充足の可能性。
 - 5) 当プロジェクトが終了し、JICA撤退後の助産婦およびバランガイヘルスワーカー の妊産婦・乳幼児検診継続の条件および体制づくりの可能性。
 - (2)地域住民の参加による地域保健活動の強化
 - 1)協同薬局活動はフィリピンが世界でも先進国であり、順調に全国展開している。国 会でもこの活動を正式に法律で許可する方向に進んでいる。リージョン に拡大する方 向は多様な団体と連携することで進展している。ただし、当活動に従事する人たちに対 する薬の知識強化のためのさらなる研修は必要である。
 - 2) 衛生教育を付帯したトイレ作製活動の推進はユニークである。現地での排便・排尿 習慣の衛生観念との現実的ギャップの調査が欲しい。
 - 3) 住民参加型の劇などによるIEC活動はプレゼンテーションの好きなフィリピンの 国民性をバックにしており、普及の可能性は大である。

総括

現場における家族計画・母子保健の啓蒙普及のキーパーソンは助産婦およびバランガ イヘルスワーカーである。いかにすれば彼らの知識と技術強化が可能になるのかを種々 の視点から追求しているのが当プロジェクトの特徴ともいえる。この人的資源が当プロ ジェクト終了後もその影響力を発揮し続けてくれれば地域保健の向上は可能である。彼 らが影響力を発揮し続けてくれる条件および体制づくりを考える段階にきていると考え る。

3-2 視聴覚教育分野

本プロジェクトにおける視聴覚教育およびIEC分野の特徴はいくつかあげられるが、まず 第一に、IECとしてのまとまった活動とIEC以外の活動領域のなかで広く使用されているこ とである。つまり、IEC専門家が中心となって中央で開発した教材やプログラムを各地の専門 家が自分の活動に使用している。逆に地方で活動している専門家のサポートに中央のIEC部門 があたっているのである。これはIECとしてのあり方としてはあたりまえのことであるが、 JICAの他のプロジェクトにはあまりみられないことである。今ひとつの特徴としては、近代 的なメディアのみならず人形劇のようなローカルなメディアを利用していることである。これは 住民参加型の活動として必要な視点であるが、実際には導入の難しいメディアでもある。これを うまく活用している点に本プロジェクトの特徴をみることができる。

それゆえ本節では、視聴覚教育・IEC分野の活動と他の領域に含まれる活動とを分けて、さらにローカルメディアの活用についても報告する。

(1) 視聴覚教育・IEC領域における活動

本プロジェクトでは保健省健康教育課内に設立されたマルチメディアセンターの強化 を目的のひとつにしている。センターは1997年12月に改築され、プロジェクトでは視聴 覚部門とコンピュータ部門への機材供与とソフト面での協力を行ってきた。現在、セン ターは保健省全体の広報および教育の中心センターとして機能しており、家族計画のみ ならず予防接種やエイズの教材やキャンペーン番組の製作にも使用されている。

保健省のプロジェクト事務所のある建物内にはプロジェクトのビデオ編集室があり、 マルチメディアセンターには音声の編集やCD-ROMソフトを作製したマルチメディ ア室のほかに事務室が置かれている。センター自体は世界銀行の資金によって設立され ているが、人材育成と機材は本プロジェクトによって行われている。

プロジェクトによってセンターで作製したものはビデオ教材と印刷教材に分けられる。 それぞれ以下のものが製作された。

【ビデオ教材】

・母親テレビシリーズ

1999年は「虫歯予防」、「狂犬病」の2本が完成した。母親テレビシリーズはわかり やすく楽しく見れることをコンセプトとしており、そのコンセプトに沿った内容、構 成にしている。このシリーズはこれまで6本完成しており、この2本を含めて8本が 完成した。

・思春期ビデオシリーズ

「初潮」、「性のめざめ」、「10代の妊娠」の3本が完成。リプロダクティブヘルスの概 念に基づき、青少年を対象として、新たに開発したものである。このプログラムの特 徴はフィリピンの学校と共同で製作している点である。「初潮」は国立フィリピン芸術 高校、「性のめざめ」はレジーナカルメリ学園高等部、「10代の妊娠」はフィリピン大 学と共同で製作した。

・住民活動支援プログラム

「トーサントイレ用土管作りとコミュニティー」はブラカン州カルンピット町のNGO (SKGK)の活動とプロジェクトの住民支援プログラムを紹介したものである。 【印刷教材】

・母子手帳

これまでの母親と子供用の記録カードを合冊にした母子健康手帳を7000部作製し、 アンダーファイブクリニックでテスト配布している。

・BHWハンドブック

バランガイヘルスワーカーのための家族計画・母子保健に関するマニュアルとして 開発し、1000部を印刷、配布した。

・カレンダー

これまでプロジェクトでは毎年、母子保健に関する啓発を兼ねて、母子保健カレン ダーを作製し、配布している。1999年は1500部を印刷した。

そのほかに保健省の広報誌、保健政策インフォメーションキット(タガログ語版) 等の製作を支援した。

【IEC調査】

リージョン におけるメディアチャンネルを把握するために、小中学校の視聴覚機材 の調査とラジオ局とケーブルテレビ局の調査を行った。

学校の視聴覚機材の調査は機材の有無を問うもので利用状況や課題を探るまでには 至っていないが、基本的な調査として重要であり、評価できる。

ラジオ、ケーブルテレビの調査は地域に密着したメディアとして、その可能性を探 るもので、今後のこの分野でのローカルメディアとして活用するための基礎調査であ り、重要である。

(2) 地方での活動

地方でのIEC活動は、小村専門家、佐藤専門家、岩永専門家とフロントライン計画 の協力隊員らの活動とリンクした形で行われている。たとえば小村専門家はタラック州 とヌエバ・エシバ州で母親学級でビデオを使用したり、ローカルテレビでの放映を行っ ている。 (3) ローカルメディアの活用

家族計画・母子保健では、人々の意識や行動様式の変容を目的としてメディアが利用 されるために、ヒューマンモデルが必要とされている。ヒューマンモデルとは、メディ アによって提示された人物のことで、態度や意識の変革にはモデルとなる人物の提示が 重要である。また、メディアに対する先有知覚(あるメディアに対する態度)もあり方 も重要な要素である。つまり、テレビは新しい情報を与えてくれる楽しいメディアだが、 地域や自分の生活に密着した意味のある情報は少ないとか、テレビの情報をうのみにす ると馬鹿をみる、テレビでの情報は商品の宣伝であって本当のことではない、といった 態度をもっている場合には、新しい情報をこうしたメディアで広げることが困難になる。 その点、劇や影絵、人形劇などのローカルなメディアは身近であり、人々の生活に密着 しているために、内容が受け入れられやすい特徴をもっている。

こうした点から、本プロジェクトで人形劇を取り入れることは、適切であると判断される。また人形劇グループを、保健従事者で組織したことは参加性の面でも有利である。

(4) 今後の方向性

本プロジェクトの課題は、こうした多面的なIEC分野の活動をどう有機的につなげ て効果をあげるかにある。今後、地域展開が深まるなかで各地での状況をどのように一 般化できるかが、プロジェクトの成果にかかわってくると思われる。地域の特性や課題 の性質によってメディア方略が変化することは当然のことであり、一般的な静的なモデ ルを構築する必要はないが、アクター、要因を分析し、今後の政策遂行のためのモデル を形成する必要がある。そのためには、これまでのメディア製作や地域活動を継続する なかで、インパクト調査を行い、知識から態度、行動変容に至る過程を明らかにする作 業が必要と思われる。

4.協議概要

4-1 概要

先方政府および関係機関との協議およびフィールド調査を行い、右結果を踏まえ協議議事録 (ミニッツ)を先方フェルナンデス保健省次官とわが方中原団長との間で締結したところ、右確 認事項の概要は以下のとおりである(ミニッツは附属資料)。

A.1998年から1999年の活動のレビュー

- (1)調査・モニタリング評価活動
 - (1-1) ルソン島中部の母子保健関連データの収集
 - (1 2) 保健データボードの設立(タラック州の13のバランガイ)
 - (1-3) バランガイヘルスワーカーの知識・態度・研修受講歴調査の実施
 - (1-4) 家族計画・母子保健にかかるジェンダー調査の実施
 - (1-5) IECメディア調査の実施
 - (1 6) 5歳未満児検診の実施のモニタリング

(2)保健従事者の研修/再研修の実施

- (2 1)対人技能研修、母子保健再訓練研修、5歳未満児検診研修、IEC研修の実施
- (2-2) 家族計画・母子保健、IECにかかる日本でのカウンターパート研修の実施
- (2-3) 広島県による研修、NGO(集団)研修の実施
- (2-4) 技術交換、現地国内技術交換
- (3)施設と機材の向上

RHUやBHSへの医療機材の供与、州保健局・地域保健事務所および保健省健康教育課への視聴覚機材の供与

- (4)住民参加による地域保健活動の実施
 - (4-1) 村落薬局保健プログラム(ザンバレス州への拡大)
 - (4 2)「トサング」製作の研修
 - (4-3) 縫製技術およびタラック州のバランガイヘルスワーカーの管理研修
 - (4 4) ビデオ上映会(TV 99)、人形劇(Teatro 99)によるアドボカシー活動
 - (4-5) 開発福祉支援事業の実施
 - (4-6)住民活動基盤強化事業の実施

- (5) I E C 教材の製作、開発、普及
 - (5 1) カレンダー、母子保健マニュアル、母子健康手帳、健康情報キット、雑誌等印 刷物の作製の実施
 - (5-2) 紹介ビデオ、思春期ビデオ、TV 99シリーズ等ビデオ教材の作製の実施
- (6)他の活動
 - (6 1) 青年海外協力隊、無償資金協力、UNFPAとのマルチバイ協力、草の根無償 資金協力、開発福祉支援事業等ODAスキームによる活動実施
 - (6 2) 女性の健康と開発フォーラム、NGOフォーラム、思春期フォーラム、男性の 参加促進プログラム等アドボカシー活動の実施

B. 今後の活動の方向性

- (1)調査・モニタリング・評価活動州のプロフィール・データベースの定期的な更新
- (2)保健従事者の研修・再研修 助産婦やバランガイヘルスワーカーに対する研修の継続実施
- (3)施設・機材の向上 保健医療従事者の活動に必要な医療機材およびIEC機材の供与
- (4)住民参加活動

地域保健活動を実施するため核となるNGOとの連携

(5) IEC教材の開発、製作、配布

保健省健康教育課と共同して印刷物・ビデオ教材の開発を継続する。

- (5 1) バランガイヘルスワーカー用母子保健マニュアル
- (5-2) 母子健康手帳
- (5-3) 思春期ビデオパッケージの開発
- (5-4) 母親および一般市民に対するIECパッケージの開発
- (5-5) IEC教材の配布のため新しいマスメディアチャンネルの開発および活用
- C. PDMに基づき協力実績のレビュー

4-2 所感

(1) これまでの協力について

住民参加活動、さまざまな地域保健の研修活動、IEC活動等が各州に着実に普及し ており、州それぞれが主体的に取り組んで活動が展開されているとの印象を受けた。地 域展開においては、フェーズ1においてタラック州で得られた成果が各州の特徴やニー ズに合わせて波及されただけでなく、新たな方向性として首尾よく住民組織(PO)や NGOを積極的に巻き込んで活動が行われた点は効果的な協力であったと考えられ、高 く評価できる。

中間評価的な視点からみても、これまでの協力で着実に成果があがっているものと思われる。

青年海外協力隊、無償資金協力、開発福祉支援事業等、さまざまなODAスキームの 投入により、相乗的な効果をあげつつある。特に、青年海外協力隊との連携によるフロ ントライン計画では、プロジェクトによる適切なサポートが隊員の活動に大きなプラス になっているものと思われる。

(2)今後の方向性について

前述のようにプロジェクトは非常に順調に進捗しているが、協力期間が半分を過ぎ、 リーダー・調整員も交替して、協力終了を見据えて活動をまとめていくべき時期に入っ ている。

12月1日に開催された合同調整委員会では、先方ニエト・リージョン 保健局長から 2002年3月のプロジェクト終了に向けてフィリピン側でも自立発展に向けた取り組みを 進めていく旨の発言があった。

これまで手広く展開してきた活動を、いかにフィリピン側だけで財政的にも技術的に も運営していけるようにするかが課題といえよう。そのために、各協力プログラムごと に評価に耐え得る活動のまとめ(たとえばプレシード・プロシード・モデルによる評価) を行いながらプロジェクトを進めることが重要と考える。

残された協力期間においては、ヘルスプロモーションの考え方を取り入れ、プレシー ド・プロシード・モデルを利用した計画・評価を行うこと、および無償資金協力により 完成する施設への技術移転を効果的に進めることにより、今後の地域保健プロジェクト のモデルともなり得る、さらに大きな成果をあげることができるものと考える。ただし、 フェルナンデス保健省次官の動向および保健省における組織改革の動きには、引き続き 注意を払っていく必要があろう。

附属資料

ミニッツ

先方プレゼンテーション資料

湯浅リーダー報告

田口専門家(IEC)報告

岩永専門家(家族計画・母子保健)報告

小村専門家(母子保健)報告

佐藤専門家(WID/啓蒙普及)報告

合同調整委員会出席者

投入実績

1998年度プロジェクト年間報告

母子健康手帳

THE MINUTES OF THE MEETING BETWEEN THE JAPANESE MANAGEMENT CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES ON THE PHASE II OF THE FAMILY PLANNING AND MATERNAL AND CHILD HEALTH PROJECT

The Japanese Management Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Toshitaka Nakahara visited the Republic of the Philippines from November 28 to December 3, 1999, for the purpose of reviewing the activities concerning the Phase II of the Family Planning and Maternal and Child Health Project, and discussing the future implementation plan of the Project.

During its stay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Philippine authorities concerned about the activities and implementation of the Project.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Manila, December 3, 1999

TOSHITAKA NAKAHARA, MD, MPH, Ph.D. Leader The Management Consultation Team Japan International Cooperation Agency Japan

MILAGROS A. FERNANDEZ, MD, MPH, CESO II Undersecretary Office for Public Health Services Department of Health The Republic of the Philippines

ATTACHED DOCUMENT

SUMMARY OF DISCUSSIONS:

A. Both sides reviewed the conduct of the following activities for the implementation of the Phase II Project.
 From 1998-1999, the following activities were conducted:

1. CONDUCT OF SURVEY, MONITORING AND EVALUATION ACTIVITIES :

- 1.1 Profiling of Central Luzon Provinces Vital information on the maternal and child health (MCH) situation of each of the provinces in the region were gathered and compiled to serve as reference for Project planning and evaluation.
- 1.2 Health Data Board This is a community-based information system which provides updated data on selected health indicators. Health Data Boards, which are maintained by community health volunteers, were put up in all thirteen barangays of San Jose, Tarlac.
- 1.3 Study of Barangay Health Workers in Central Luzon This study, conducted in three provinces of Central Luzon, contains basic information on barangay health workers' knowledge on family planning (FP) and MCH, their attitude towards their job and their training history.
- 1.4 Gender Study on FP and MCH This is a baseline study of the gender gap between men and women in terms of their awareness, attitudes, needs and practices in the field of reproductive health (RH).
- 1.5 IEC (Information, Education, Communication) Media Survey This survey was conducted on audio-visual mass media and media facilities in schools in Region III to determine possible strategies for expanding the reach of IEC advocacy materials.
- 1.6 Evaluation study on the implementation of the Botika Binhi Program in Tarlac
- 1.7 Monitoring of the implementation of the Under Five Clinic Program in pilot areas

2. IMPLEMENTATION OF A TRAINING/RE-TRAINING PROGRAM FOR HEALTH WORKERS:

- 2.1 Local training on Interpersonal Communication Skills, MCH Refresher Course, Under Five Clinic Program, Gender Sensitivity and IEC, and a Capability Building Program for BHWs
- 2.2 Counterpart Training in Japan on Family Planning/Maternal and Child Health (FP/MCH) and Information, Education and Communication (TEC)

- 2.3 Other Training Programs in Japan, including the:
 - 2.3.1 Cooperation Program for Overseas Technical Trainees of Hiroshima Prefecture;
 - 2.3.2 JICA Group Training Course on Capacity Building for Local NGOs (Non-Governmental Organizations) and NPOs (Non-Profit Organizations) for Health Development
- 2.4 Mutual exchange of information with other health workers through:
 - 2.4.1 JICA's Technical Exchange Program in Vietnam; and
 - 2.4.2 Local technical exchange program with the United Nations Population Fund (UNFPA) held in Region VI (Western Visayas) and Region XI (Southern Mindanao)

3. UPGRADE OF FACILITIES AND EQUIPMENT:

Provision of medical equipment particularly to field health units (Rural Health Units and Barangay Health Stations), as well as the provision of IEC equipment to Provincial and Regional Health Offices and the Public Information and Health Education Service of the Department of Health (DOH)

4. CONDUCT OF HEALTH-RELATED COMMUNITY PARTNERSHIP ACTIVITIES:

- 4.1 Community Drug Insurance Program expansion to Zambales
- 4.2 Environmental Sanitation Program, including the training on "Tosang" Making Tosang is an inexpensive cemented hollow container used in toilet construction; This program has both a health education and a skills training component.
- 4.3 Training Program to Upgrade the Sewing Skills and Management Capabilities of TarlacBarangay Health Workers
- 4.4 Health Advocacy Activities, such as:
 - 4.4.1 Those implemented on a continuing basis:
 -TV 99: the regular community film showing activity in Tarlac
 -Teatro 99: Puppet Theater presentations in schools and communities; and
 - 4.4.2 Other RH Advocacy Activities, such as:

-Women's Health and Development Forum

- NGO Forum
- Adolescent Health Needs Assessment Forum

-Male FP/RH Motivator Program

5. DEVELOPMENT, PRODUCTION AND DISSEMINATION OF IEC MATERIALS:

- 5.1 Development and production of print materials, such as: the 1999 Calendar, MCH Manual for Barangay Health Workers (BHWs), MCH Record Book, Health Info Kit in Pilipino and the "HealthLine" and "HealthBeat" Magazines
- 5.2 Production of video materials, such as the Phase II Project Introduction video (Reaching Out), Adolescent Video on Sexual Identity and Teenage Pregnancy, TV 99 Series on Dental Health and Rabies

6. **PROVISION OF TECHNICAL ASSISTANCE:**

The Project provides technical assistance to Local Government Units (LGUs) and Non-Governmental Organizations (NGOs) regarding other Japanese Official Development Assistance (ODA) Schemes, such as:

- 6.1 Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)
- 6.2 General Grant Aid Program for Region III
- 6.3 Multi-Bilateral Cooperation with the United Nations Population Fund (UNFPA)
- 6.4 Grant Assistance for Grassroots Projects
- 6.5 JICA's Community Empowerment Program for NGOs in Region III
- 6.6 JICA's Drug Revolving Fund for NGOs and other agencies in Region III
- B. Both sides confirmed the conduct of the following activities for the coming years of the Phase II Project:
 - 1. SURVEY, MONITORING AND EVALUATION:

Regular updating of the provincial profiles/data bases from the results of Project monitoring activities, continuous survey and evaluation activities

2. TRAINING/RE-TRAINING PROGRAM FOR HEALTH WORKERS:

Conduct of a Capability Building Program for barangay health workers and midwives

3. UPGRADE OF FACILITIES AND EQUIPMENT:

Provision of additional medical and IEC equipment needed by health workers to perform their functions more effectively

4. COMMUNITY PARTNERSHIP ACTIVITIES:

Cooperation with a core of NGOs and People's Organizations (POs) in Region III for the conduct of various health-related community activities

5. DEVELOPMENT, PRODUCTION AND DISSEMINATION OF IEC MATERIALS:

The Project will continue to develop print and audio-visual materials in cooperation with the DOH's Public Information and Health Education Service (PIHES).

- 5.1 MCH Manual for barangay health workers (BHWs) in Tagalog developed by the Project as training and reference guide for BHWs
- 5.2 MCH Record Book
- 5.3 Development of an IEC video package for adolescents, which includes discussion guides for the Health Educator/Facilitator
- 5.4 Development of an IEC Video package on health for mothers and the general public, which includes discussion guides for the Health Educator
- 5.5 Exploring new mass-based channels for dissemination of IEC materials, like schools and community assemblies, and the use of appropriate mass media

6. CONDUCT OF OTHER ACTIVITIES:

- 6.1 Conduct of a pilot program for adolescents
- 6.2 Promotion of gender sensitivity in the implementation of the FP/MCH program
- 6.3 Implementation of a gradual transition period for the turn-over of all Project activities to counterparts in preparation for the completion of the Project in March 2002
- 6.4 Exploring the possibility of setting the PRECEDE-PROCEED Model for community health promotion for the evaluation of community health intervention activities
- C. Both sides reviewed the implementation of Project activities from the start of the Project until now, based on the Project Design Matrix (PDM). The details of the review are shown in ANNEX 1.

ANNEX I: ACHIEVEMENTS OF THE PROJECT (1997-1999)

PROJECT DESIGN MATRIX

PROJECT DESIGN MATRIX						
NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	ACHIEVEMENTS	IMPORTANT ASSUMPTIONS			
OVERALL GOAL: To improve health status through the DOH's Reproductive Health strategy in Region III	-Health indicators -Socio-economic indicators		Other government policies, particularly socio- economic & development policies, are supportive of health policy			
PROJECT PURPOSE: To achieve region-wide improvements in reproductive health status among all the provinces in Region III (Central Luzon) through dissemination of the gains from the FP/MCH Project in Tarlac	 Improvement of Infant Mortality Rate (IMR) and Maternal Mortality Rate (MMR) in the project area; Increase in Contraceptive Prevalence Rate (CPR) in the project area Increase in the % attendance for Prenatal & Postnatal Check-ups 	Appropriate surveys/ studies will be conducted during the second half of the project life.	-DOH continues its commitment to prioritize FP & MCH programs -Adequate budget , manpower & facilities are available for the DOH to carry out its programs effectively & efficiently -Interagency networking among GOs, NGOs & other donor agencies involved in FP & MCH is in place;			
OUTPUT: 1. improved management &		4 Surveys conducted;	-Capability of local			
objective evaluation of project		1 Evaluation study-ongoing;	government staff to support project activities;			
2. Developed manpower resources thru formal/informal	-No. of health workers sent for technical training	Health workers sent: for local training: 838	-Proper utilization and			
skills training, mutual exchange of information with other health workers & technical transfer by		Health workers sent for technical exchange: 62	maintenance of equipment & facilities			
experts in relevant fields	-No. of local training courses conducted	No. of local training courses conducted: 31 (+ 2 more courses scheduled in Dec. & Qtr-1 2000)	-Smooth coordination among all agencies involved in the project thru the Joint Coordinating Committee			
3. Improved capability of local government staff to manage health programs	-List of medical & IEC equipment provided according to specifications	Basic medical & IEC equipment - distributed annually to DOH, RHO-3 and 6 PHOs	 Regional & Provincial Coordinating Committees are functioning properly 			
 Improved health status of community people in the project areas thru people's active 	-Increase in volume of clients who visit facility for primary health care	Under-five Clinic Program piloted in 18 RHUs				
participation in health activities	-Community health /welfare organizations in place & functioning	Federation of Botika Binhi Workers - in Tarlac & Zambales, SKGK, PRRM-Bataan, Aeta Dev't Association are among the functioning organizations that linked to the project.				
 Smooth dissemination of IEC materials pilot-tested in the project area 	-Quality & quantity of IEC materials produced & distributed	Video materials produced: 10 Print materials produced: calendars (2,000), BHW Handbook (1,000), MCH Record Book (14,000), HealthLine magazine (2 issues-each 1,000 cps), HealthBeat magazine (5 issues- each 5,000 cps), Health Info Kit in Pilipino (2,500), FP/MCH Mini-library (500)				

PROJECT DESIGN MATRIX - Page 2 of 2 Pages

NARRATIVE SUMMARY	INPUT	INPUT	IMPORTANT ASSUMPTIONS
ACTIVITIES	Philippine side:	Japanese side:	
 Conduct of survey, monitoring and evaluation activities in collaboration with research & academic institutions Implementation of Training/Re-training program for health workers (Midwives, Nurses, Health Officials) Upgrade of facilities & medical & IEC equipment Conduct of health-related community participation activities Development, production & dissemination of IEC materials 	 -Counterpart personnel: On regular basis - 20; + others on a per activity basis -Counterpart budget Approx. P12 M (salaries/ maintenance & operating costs) -Office space & facilities - at DOH -FPS, RHO-III, Bataan PHO, Tarlac PHO -Support & Coordinating mechanism for project activities in place: DOH-FPS & OPHS DOH-PIHES RHO-3 PHOs - 6 provinces Selected pilot municipalities; -NGO support:: Office space & facilities - Univ. of Regina Carmeli and NGO's cooperating mechanism in place for community-based activities 	-Long-term Experts: Total = 9 Chief Advisor - 2 Coordinator- 2 FP/MCH-1 MCH-1 Gender & Dev't- 1 IEC- 2 -Short-term Experts: Total = 18 Statistics - 2 Public Health- 2 Primary Health- Care- 5 FP/MCH/Nutrition- 6 Women in Dev't- 1 IEC- 2 -Equipment : Home Delivery Kit Under Five Clinic equipment : Magnel Kits Maggie-the-Apron Computer system Projectors Sound system & Office equipment -Training in Japan FP/MCH: 6 IEC: 4 (+2 more scheduled to leave by Qtr 1-2000)	 -Commitment of LGUs to support project activities; -Facilities, manpower & budget are provided as proposed; -Smooth coordination among the DOH - Central and Regional Offices, LGUs, other GOs and NGOs.



FP -	Family	Planning
------	--------	----------

- MCH Maternal & Child Health

- MCH Maternal & Child Health LGU Local Government Unit IEC Information, Education, Communication GO Government Organization NGO Non-Governmental Organization DOH Department of Health SKGK Samahang Kababaihan ng Gatbuca sa Kaunlaran OPHS Office for Public Health Services FPS Family Planning Service PIHES Public Information & Health Education Service PHO Provincial health Office

- PHO Provincial health Office RHO-3 Regional Health Office III
- PRRM Philippine Rural Reconstruction Movement

② 先方プレゼンテーション資料



Good morning, ladies and gentlemen. It's good to see Dr. Nakahara, Dr, Suganami and Dr. Utsumi once again. I am also happy to meet for the first time the other member of the Team: Mr. Kaneko. I understand that they are here to review the activities of the Family Planning and Maternal and Child Health Project jointly undertaken by the Department of Health and the Japan International Cooperation Agency. This Joint Coordinating Committee Meeting is a venue where both sides gather and carefully examine activities conducted so we could decide on future directions.

This morning, I am happy to report on the progress of the implementation of the Project. The Project started in April 1997and will end in the year 2002; we are now midstream in project implementation.

-24 -

BACKGROUND • Phase I piloted in Tarlac • Phase II expanded to Bataan, Bulacan, Nueva Ecija, Pampanga, and Zambales • Project Goal: To achieve improvements in reproductive health status in Region III

Let me give some background information to situate us on what we have done so far and what our overall goal is. This should be useful especially to the member of the Team who is joining us for the first time.

As I said earlier, this DOH-JICA FP-MCH Project - Phase II started in April 1997; it is actually an offshoot of the Phase I project that was piloted in Tarlac. Phase II is an expansion of the project to the other 5 provinces of Region 3, covering Bataan, Bulacan, Nueva Ecija, Pampanga and Zambales. The main goal of the project is to achieve improvements in reproductive health status in region 3.



We expect to achieve this goal through dissemination of the gains made from the Phase I Tarlac experience that was successful enough for us to want to duplicate.

Our experience in Tarlac showed us that the following factors are critical to achieving improvements in health:

• The presence of a pool of trained and capable manpower. Health workers who are experts in their own fields make a big difference in service delivery.

• Adequate medical equipment. Of course, health workers need the tools of their trade in order to function effectively.

• Upgraded health facilities are necessary since so many of our facilities are dilapidated and cause inconveniences to clients and health personnel, thus making work inefficient.

•The involvement of the community in health promotion is vital; community members should be encouraged to participate more in health concerns since ultimately, it is they who benefit and are the primary stakeholders in health care.

•And last but not least especially in a devolved setting, strong political commitment could spell the difference between success and failure in any endeavor.



The Phase II Project is concerned with pursuing the above-cited gains. The Project will continue to focus on FP/MCH. The design and implementation of such activities will be guided by the reproductive health and gender and development frameworks.

Year I - 1997 implementation was a period for planning characterized by the gradual initiation of major activities. Year II in 1998 ushered in an intensification period where we strongly pursued the major activities started in 1997. These include:

• the conduct of surveys, monitoring and evaluation activities to give us some background information for project activities as well as to initiate feed-forward and feedback mechanisms

• the implementation of training and retraining programs to upgrade the capabilities of health workers

• the upgrading of facilities and equipment to enable health workers to provide good quality services to clients

• the conduct of health-related community partnership activities to give communities greater involvement in health management

• the development, production and dissemination of IEC materials to improve knowledge on health and change health behaviors,

•the provision of technical assistance in the conduct of other activities supported through Japanese schemes, and

•the provision of medical and IEC equipment to improve services in terms of medical care and information dissemination.



Let me now highlight to you what we have accomplished in greater detail. Under the the conduct of survey, monitoring and evaluation activities, we completed the following studies:

• Profiling of Central Luzon Provinces: this produced a compilation of vital health information from all 6 provinces to establish some baseline data on the FP/MCH situation.

• Barangay Health Workers Study in Central Luzon: This study gives us some basic information on the BHW socio-economic and demographic profile, job background, training history, and their knowledge on FP/MCH matters.

• Gender Study on Family Planning and MCH which gives us some baseline information of the gender gap between men and women in terms of their awareness, attitudes, needs and practices in the field of reproductive health.

• The IEC Media Survey provides basic information on region 3 media channels and their utilization to determine possible strategies for expanding the reach of IEC advocacy materials.

• Health Data Boards were put up in San Jose, Tarlac to serve as community-based information systems that provide updated data on selected health indicators.

Still ongoing to the present is the Evaluation Study of the Botika Binhi Program in Tarlac and the monitoring of the implementation of the Under Five Clinic Program in selected pilot areas in 6 provinces.


To strengthen the capabilities of health workers, the Project implemented a training/retraining program which includes local training programs, counterpart and other training programs in Japan.

Under the Local Training Program, we conducted the following:

• Training on the Operation of the Under Five Clinic Program. The project supported the popular clamor to reactivate the UFC Program on a pilot scale in selected RHUs. A 2-tiered training program was implemented, first the Trainors' Training then the Echo Trainings. Trained as trainors were 92 personnel from RHUs, the RHO, PHOs, provincial hospitals, and NGOs; 188 personnel from the pilot RHUs were trained in the echo trainings. The pilot RHUs were equipped with basic equipment like salter scales and haemometer to enable them to implement the UFC program. The Project also introduced the MCH Record Book which will help mothers monitor their pregnancy and the growth of their child.

•Another training program was on Maternal Care for Rural Health Midwives. The lives of mothers and children depend on the skills of midwives, hence it is important that they be equipped with appropriate knowledge and skills to enable them to effectively provide information and services to mothers. In year II, 5 batches of trainings were conducted covering 185 RHMs from the provinces of Bataan, Nueva Ecija, and Pampanga.



Still under the Local Training Program, the Project also provided for the conduct of :

• a Seminar Workshop on Child Growth Intervention. This training on nutrition was initiated by the province of Pampanga. It was specifically designed to improve health workers' capabilities in conducting mothers' classes or in teaching and counseling clients using the reference materials on child growth intervention. A similar training was also conducted in Bataan. In all, we trained 59 nurses midwives, and BHWs.

•In aid of promoting FP/MCH, we had a training on the Proper Use of Magnel Kits and Maggie the Apron. These are educational aids which can be utilized in educating mothers and other clients on contraceptive methods, contraceptive failures, process of ovulation, etc. <u>Actotal of 72 health</u> personnel were trained in Bulacan and Nueva Ecija.

•BHWs were trained to enable them to effectively perform their roles as community organizers, educators and health service providers. In Bataan and Zambales, we conducted trainings for 60 for the prevention of non-communicable diseases.

•Seminar Workshops on Puppet Theater were conducted for <u>40 health</u> workers in Nueva Estimand Zamoars. Puppetry has been shown to be an educational and entertainment medium in IEC that was effective in Tarlac in Year 1. Health personnel trained in puppetry are now conducting puppet shows in communities and schools.

•Lastly, a seminar on Health Policies and Devolved Health Managers was conducted. In keeping with the need for continuous updates to strengthen the capabilities of health managers, a one-day seminar on leadership and health policies was conducted for 40 Municipal Health Officers and Rural Health Physicians of Bataan.



The second aspect of the training/retraining program is the Counterpart Training Program where we sent deserving and qualified health personnel from among the Philippine counterparts for training in Japan. In Year II, we had the following trainings:

• Training on the Production of Audiovisual Communication Media held in Okinawa, Japan. The Regional Information Officer, Ms. Elenita Carreon, participated in this training.

•Training on Video Program Production Techniques held at the Sony Center, Tokyo, Japan. Mr. Fedelino Mendoza of PIHES, DOH, Manila was sent.

• Training on MCH held in Hiroshima and Okayama, Japan. Ms. Aurora de Guzman of Nueva Ecija and Ms. Alice Miranda of Pampanga attended the training. Now in Japan for similar training are 2 technical staff from Zambales.

There were other training programs in Japan where we sent participants who are not necessarily from the counterpart side. These trainings include the:

• Cooperation Program for Overseas Technical Trainees of Hiroshima Prefecture were Ms. Rowena Alba from the University of Regina Carmeli were sent, and the

• JICA Group Training Course on Capacity-building for local NGOs and non-profit organizations for Health Development. We sent Ms. Dolores Tizon also of Regina Carmeli.

Last year and this year, we witnessed the mutual exchange of information with other health workers through the JICA Technical Exchange Visit in Vietnam. Ms. Yoko Komura, Ms. Shoko Sato, Dr.. Juliana Marcelo and Dr. Fua observed and learned from and shared with Vietnam their experiences in implementing MCH programs. Likewise, a Local Technical Exchange Program with UNFPA was held in Region 6 and Davao; we sent 3 batches of outstanding health officials, officers and workers from the provinces.



Health care is not solely the responsibility of health service providers. The involvement of the community is a vital element to achieve better health. The community should be empowered with knowledge and skills about health care so the people can take responsibility in improving their health. The Project initiated a number of community partnership activities designed to empower people and the community. These include:

• The Community Drug Insurance Program in Pampanga, Tarlac, and Zambales

•The Environmental Sanitation Program which consists of a health education component and a skills training component in tosang-making

•Training Program to upgrade the sewing skills and management capabilities of Tarlac BHWs

•Health Advocacy activities like TV 99 and Teatro 99

•Conduct of other Reproductive Health advocacy activities like the Women's Health & Development Forum, the NGO Forum, Adolescent Health Needs Assessment Forum, the Male FP/RH Motivators Program and gender sensitivity sessions for health workers.



Another area where the project has poured in a lot of resources is in the development, production, and dissemination of IEC materials. There is still a dearth of IEC materials in the field. The Project developed and produced both print and video materials which are envisioned to inform and educate target clients about health messages. Among the print materials done in 1998 were the 1999 Calendar, MCH Manual for Barangay Health Workers, MCH Record Book for Mothers, a translation of the Health InfoKit in Pilipino, and the HealthLine and HealthBeat magazines. The video materials include the Phase II Project Introduction titled Reaching Out, the adolescent video on sexual identity and teenage pregnancy, and the TV 99 series on dental health and rabies.



On top of the above-mentioned 5 major activities, the Project provides technical assistance to local government units and NGOs regarding other Japanese Official Development Assistance (ODA) schemes such as:

- Japanese Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)
- General Grant Aid Program for Region III
- Multi-Bilateral Cooperation with UNFPA
- •Grant Assistance for Grassroots Project
- •JICA's Community Empowerment Program for NGOs in Region III
- •JICA's Medicine Revolving Funds for NGOs and other agencies in Region III

Overall, I would say that the Project is proceeding smoothly. We are happy and grateful that the Project has contributed so much in improving capabilities and in upgrading our facilities to carry our promotion of the various health programs more efficiently and effectively. However, the small gains we have made would not be possible without your support and cooperation. We are particularly grateful for the time, manpower, and facilities that you made available to us. I hope to count on your continuous support until the year 2002.



By the way, JICA staff have distributed a copy of the Project Design Matrix which summarizes the accomplishments thus far achieved. Please take a look at the matrix and if you have any comments or recommendations, please feel free to raise these in the open forum later.

At this point, I would like to share with you our plans for the coming years. All major activities will be pursued. For instance, we will carry out a capability-building program for midwives and BHWs. Additional medical and IEC equipment will be provided. We will pursue cooperative ventures with NGOs. We plan to produce more print and video materials for IEC activities. The Project also intends to carry out some new initiatives like starting an adolescent program on a pilot scale and the use of the PRECEDE-PROCEED model for the evaluation of community health intervention activities. As usual, monitoring and evaluation of activities will be undertaken. Finally, we will start preparations for the gradual turnover of all project activities to counterparts. We have to keep in mind that the Project will terminate in the year 2002, so we must be prepared to carry on with health programs upon withdrawal of funding support from JICA.

Next year, another JICA Project will commence and this involves the construction of MCH Centers, RHUs and Barangay Health Stations. This infra project and the FP/MCH Project are our vehicles to realizing an improved MCH situation in the region. But let me remind you that these vehicles will not run unless the drivers operate these effectively. The drivers are non other than us: we at the Regional Health Office No. 3, you at the Provincial Health Offices, our partner NGOs and all our health workers.



Hand in hand, we should be able to steer these projects or should I say these vehicles to achieve our common goal of improving the health and quality of life of the people in Region III. I therefore seek your united and total support to make this happen, that we may secure the good health of mothers and children in Central Luzon.

Thank you and mabuhay!

③ 湯浅リーダー報告

今後の FP/MCH プロジェクトⅡ運営の基本構想

1999年11月15日記

湯浅資之

1. プロジェクトの全体構成

• 4つのプログラムと各種活動

活 動

プログラム



従来のプログラム

略号	プログラム	従来のプログラム	
IMCH	統合母子保健	1.	UFC(乳幼児健診)
		2.	母子手帳普及
		3.	母親学級
		4.	栄養強化
RHNI	リプロダクティ	1.	家族計画における男性の巻き込み
	ブ・ヘルス推進	2.	思春期保健
		3.	母子保健以外のリプロダクティブ・ヘルス
			関連事業
CE	住民組織活動支援	1.	村落協同薬局運営
		2.	ヘルスデータボード活用地域保健計画策定
			支援
		3.	参加型 IEC 活動(TV99、Teatro99、思春
	·		期ビデオ)
NGO	NGOs 連携	1.	開発福祉支援事業援助による NGOs 支援
	モデル構築	2.	生計向上洋裁事業
		3.	"Tosang"簡易トイレ設置
		4.	その他関連 NGO 支援

2. 専門家の役割分担

• 業務分担·地区分担別長期専門家分掌

長期専門家	業務分担(*;主要プロ	グラム) 地区分担
湯浅資之	1. 事業総括	
	2. 対外組織間の連絡調	整
成瀬 章	1. 会計処理	
	2. 供与機材調達	
	3. 連絡調整	
	4. 広報	
小村陽子	1. 統合母子保健*	1. Pampanga
	2. FLI 計画との連携調	整 2. Bulacan
佐藤祥子	1. リプロダクティブ・	ヘルス推 1. Zambales
	進*	2. Bataan
公衆衛生担当	1. 住民組織活動支援*	1. Tarlac (ハンドオーバー)
	2. 疫学診断	2. Nueva Ecija
	3. 自治体への事業引き	継ぎ
九里武晃	1. NGO 連携モデル構	袅×

,

• 短期専門家分掌

短期専門家名	指導分野	具体的指導事項
(所属先)		
曽根智史	公衆衛生	PRECEDE-PROCEED Model に基づく計画・評価
(国立公衆衛生院)		
坂本なほ子	疫学統計	PRECEDE-PROCEED Model に基づく疫学診断
(国立国際医療セン		
ター研究所)		
渡邊一代	母子保健	助産婦の立場による母子保健プログラムに関する指導
		助言
里村一成	公衆衛生	医師の立場による母子保健プログラムに関する指導助
(京都大公衆衛生)		善
上原鳴夫	質的管理	母子保健プログラムの標準化及び質的管理
(東北大国際保健)		
未定	住民参加活動	WID/ジェンダープログラムに関連する住民参加活動
		に対する指導助言
渡部基	思春期保健	HP に基づく思春期保健プログラムに関する指導助言
(道教育大健康教育)		
佐藤寛	社会学	住民組織活動支援プログラムに関する評価・指導助言
(JETRO アジア研)		
未定	参加型 IEC	住民参加による IEC 活動に関する評価

• プログラム別長期・短期専門家配置

プログラム名	長期専門家(指導分野)	短期專門家(指導分野)
統合母子保健	小村陽子(母子保健)	渡邉一代 (母子保健)
		┃里村一成 (公衆衛生)
		上原鳴夫 (質的管理)
リプロダクティブ・	佐藤祥子(WID/啓蒙普及)	未定 (住民参加活動)
ヘルス推進		渡部基 (思春期保健)
住民組織活動支援	長期専門家(公衆衛生)	佐藤寛 (社会学)
		未定(参加型 IEC 活動)
NGOs 連携	九里武晃(家族計画·母子保健)	
モデル構築		



2. プロジェクト計画・評価のスケジュール

年次報告

IEC専門家 田口 明男

1、平成10年度、11年度9月までのIEC活動実績

(1) 保健省健康教育課、マルチメディアセンター強化

平成9年12月、保健省マルチメディアセンターは世界銀行の融資により改築され、前 ラモス大統領を迎え盛大に開所された。大統領より、センターへのハード/ソフトの協力 についてJICAに感謝するとのお言葉があった。プロジェクト供与機材もセンター内に移 転し、マルチメディアセンターは、コンピュータをベースにしたCD-ROMソフト等を含 む教育教材の制作をはじめ、AV教材、印刷教材制作を含めた、保健省教育・広報のシン ボル的存在となった。AVユニットに対する供与機材は、本プロジェクト活動における教 材開発/制作はもとより、関連JICAプロジェクト(TB,AIDS)の教材開発/制作も含んで おり、現在保健省全体のIEC 活動の拠点になっている。

現在、センター内に本プロジェクトIEC事務所及び編集スタジオ、マルチメディア編集 室を持ち、教材の制作協力に加え、マルチメディアセンター所長及び各援助機関とのコー ディネーション及びスタッフへのアドバイス等、センター内のマネージメント業務につい て、協力活動を行っている。

本プロジェクトではマルチメディアセンターのスタッフの強化を継続的に行っており、 フェーズIで6名、フェーズIIでも既に3名のカウンターパートが日本で研修を受け帰国 している。その帰国研修員が中心となり、保健省広報の主要教材(TVスポット、ラジオ スポット、印刷媒体向け版下制作、簡易教材印刷等)は、マルチメディアセンターで制作 されている。また、

(2) 教材開発及び制作

※ビデオ教材

1) 「母親テレビ」

フェーズIで開発した「母親テレビ」は「虫歯予防」「狂犬病」が加わり、現在まで8 作が完成した。「母親テレビ」シリーズは、<u>分かりやすく楽しく見れる</u>コンセプトとシリ ーズ化で、リージョンIII以外の保健所、病院、NGO等各方面から問い合わせ及びコピー の要請がきている。

2) 思春期ビデオ教材(MTVドラマ)

リプロダクティブヘルスの概念に基づいた活動推進のため、青少年を対象とした思春期 プログラムを開発した。プログラムは、フィリピンの高校生(12-16歳位)を中心対 象とし、思春期のさまざまな心身の変化に対し、適切なガイドラインを与える素材として シリーズ化を計画している。現在、国立フィリピン芸術高校の生徒及び教官と共同で教材 制作に当たった第一作目の「初潮」、レジーナカルメリ学園高等部と共同制作した第二作 目の「性のめざめ」、フィリピン大学等と共同制作した第三作目の「十代の妊娠」、の三 本の制作が完成している。 3) 住民活動支援プログラム("トーサン"トイレ用土管作りとコミュニティ)

ブラカン州カルンピット町で活動するNGO(SKGK)の活動と、本プロジェクトの地域 住民活動支援プログラムの紹介ビデオ。

※印刷教材制作

1) 保健省広報誌"Health Beat"制作協力

平成10年7/8月号より11年3/4月号までの保健省広報誌"Health Beat"制作協力を行った。"Health Beat"は隔月刊の保健省広報誌であり、各政府機関、保健省各局、保健省地域事務所、州保健局及び各援助機関等に配付されている。各号5,000部印刷。

2)地方自治体への保健政策インフォーメーションキットのタガログ語翻訳及び制作。 保健省リージョンⅢ事務所と共同で進めていた、地方自治体への保健政策インフォーメ ーションキットのタガログ語バージョンを制作した。2.500キット制作

3)母子手帳の開発

保健省母子保健局と協議のうえ、現在まで母親用と子供用に別れていた記録カードを1 冊にした母子手帳を制作した。現在各州アンダーファイブクリニックのパイロット地区で プリテストを行っている。保健省母子保健局との協議は継続して行っている。7,000部印 刷

4) BHWハンドブックの開発

本プロジェクトのフェーズ I で制作したタガログ語版"MCHハンドブック"をベース に、村落保健ボランティア向けマニュアルに改定した。村落保健ボランティアの、家族計 画・母子保健の知識を補うマニュアルとして制作した。1,000部印刷

5) 1999年カレンダー制作

1999年版カレンダーは、"リージョンIIIの母と子"をテーマとし、写真構成とした。この カレンダーは、保健省各局及び全リージョナル事務所、リージョンIII各州保健局及び保健 所、関連各援助機関及び関連NGOに配付した。1,500部作成 (3) IEC調査の実施

1) 目的

フェーズIIにおいては、フェーズIで達成した保健省マルチメディア・センターへの技術 移転を保持しつつ、リージョンIII全体に教材制作の成果を普及させていくことが主要課題 であり。この課題を遂行するために、現在まで蓄積してきた既存のビデオ教材をさまざま なチャンネルで利用することと、マスメディアを含めて新たなメディアのチャンネルを発 掘をすること目的として、メディア調査を実施した。

2) 方法

調査は、①小中学校における視聴覚機材調査、②ラジオ局調査、③ケーブルテレビ局調 査に分けて実施した。調査時点はいずれも1999年1月現在とした。小中学校における視聴 覚機材調査では、6州の州教育スポーツ省の協力を得て、その行政情報から、公立及び私 立小中学校の内、テレビとビデオ装置を保有するものを、リストアップした。ラジオ局調 査では、地域内の18のラジオ局に、面接調査を行った。ケーブルテレビ局調査では、テ レビ局の実態と番組供給形態について、地域内の21のケーブルテレビ局に、面接調査を 行った。

3) 結果

①小中学校における視聴覚機材調査

小中校あわせて公立212校、私立162校、合計374校で、テレビとビデオのセットの保 有が確認された。州別では、都市化が進んでいるブラカン州とパンパンガ州で多く、ヌエ バ・エシハ州とザンバレス州で少ない。視聴覚機材を保有する学校でも、放映するソフト の数はすくなく、ビデオ教材の配布は期待されている。プロジェクトでは、この結果を基 に保健省と協議し、教育スポーツ省と協力体制をとり、母親テレビ・シリーズと思春期ビ デオ・シリーズの配付リストを作成する。また、思春期ビデオをブラカン州のレジナ・カ ルメリ中学校と協力して制作し、評価調査を実施したたように、保健教育シリーズの制作 と評価について、協力校の選定に使用する。

②ラジオ局調査

FM局よりAM局の方が、放送内容が多彩であるため、より協力関係が結びやすい。ヌ エバ・エシハ州カバナツアン市所有のAM局DWNEは、既に保健教育番組を放送してお り、試験的な番組協力を行うことは可能である。全てのラジオ局、特にAM局は、政府が 行う保健情報番組に対して好意的であり、協力は可能である。以上により、新たなメディ アとして、「母親ラジオ」の制作及び放送は可能であるが、放送内容及びラジオ局との協 力体制を、保健省とさらに検討していく必要がある。

③ケーブルテレビ局調査

バタアン州では、既にケーブルテレビ局を通し、「デング熱」を中心に母親テレビシリ ーズを放送している。21局の内、13の局が自主番組を放送しているので、協力の可能性 がある。現在はまだ契約者数が全体的に少なく、保健教育広報の中心的メディアとしては 地盤ができていない。しかし、普通の世帯でも加入するところが増加する傾向にあり、ま た、テレビ局ではソフトの不足が常態であり、本プロジェクトのビデオ教材放送は、将来 的なメディアとして期待できる。 (4)保健省第三地域事務所でのIEC活動

保健省第三地域事務所と共同で行っている、地方自治体に対する保健政策アドボカシー 活動の一貫として、平成11年3月に「女性の健康と開発」をテーマにリージョナル・フ ォーラムを行った。これには、保健省次官メルカド氏、女性町長等のパネリストを迎え、 各地方自治体医療保健担当官等150名余りの参加者を得、活発な討議が行われた。 各自 治体へのアドボカシー活動の一貫として十分な成果を得たと考える。また、上記アドボカ シー活動の一貫として制作していた、インフォーメーションキットのタガログ語バージョ ンが完成した。

メディア調査の結果をふまえ、保健省第三地域事務所を中心として教育スポーツ省第三 地域事務所の協力を得、現在「母親テレビ」シリーズと「思春期ビデオ」シリーズの配付 校の選定と教材リストの作成を行っている。

(5) 各州でのIEC活動

各州保健局には、パソコン及びプレゼンテーション用機材を供与している。平成10年 5月及び11年6月、パソコンを使用したプレゼンテーション研修を、保健省第三地域事 務所広報担当官及び各州保健局広報教育担当官に対し行った。また、液晶プロジェクタ ー、VTR、小規模PA装置も同時に供与しているため、100から200人程度の人数であれば 各州でビデオの上映を行うことも可能となっている。 *継続的活動

1) 母親テレビ上映会ーーーータラック州

2) 母親劇場(コミュニティ人形劇) ーーータラック、ヌエバ・エシハ、バタアン州

2、今後のIEC活動計画

(1) マルチメディアセンター

本プロジェクトIEC専門家が帰国するが、継続的なカウンターパート研修が望まれる。 保健省の要請で、母親テレビ・シリーズは平成11年11月よりフィリピン再大手のケ ーブル局スカイケーブル"Knowledge Channel"で継続的に放送されることになった。 現在マニラ首都圏中心であるが、全国主要都市のスカイケーブルネットワークでも近々放 送される予定である。

※教材のパッケージ化と配付システムの確立

(2) 教材開発及び制作

1) 母親テレビ(10本シリーズ)

「母親テレビ」シリーズは現在8本が完成。2002年のプロジェクト終了までに10本 のシリーズ化を行いパッケージにする。ビデオ教材に沿った指導用マニュアルを同時に制 作し、パッケージに添える。

2) 思春期ビデオ教材(5本シリーズ)

「思春期ビデオ」シリーズは現在3本が完成。2002年のプロジェクト終了までに5本 のシリーズ化を行いパッケージにする。ビデオ教材に沿った指導用マニュアルを同時に制 作し、パッケージに添える。

3) 母子手帳の継続的開発

各州でのプリテストの結果により改訂版を制作し、保健省母子保健局とさらに協議を行 う計画である。母子保健局でも母子手帳の計画があり、保健省の母子手帳として決定版が できれば、全国の普及にはずみがつくと思われる。

4) ミニライブラリー

本プロジェクトのフェーズIで開発した家族計画・母子保健ミニライブラリーは、各機 関及びNGOクリニックからの要望も多いことから、毎年増刷している。プロジェクトサ イト6州の各保健所に行き渡るまで、継続して制作していく予定である。

(3) 教材配付システムの確立

現在行っている保健局を中心にした保健医療関連施設への教材配付に加え、保健省第三 地域事務所を中心に、教育スポーツ省第三地域事務所と協力し、小中学校に向けた「母親 テレビ」シリーズと「思春期ビデオ」シリーズの配付システムを確立する。

(4) IEC活動評価の実施

*マルチメディアセンター評価

*母親テレビ・シリーズ、思春期ビデオ・シリーズの教材内容の評価。

*継続的に活動を行っている母親テレビ上映会、母親劇場等普及活動に対する評価 *小中学校への「母親テレビ」及び「思春期ビデオ」シリーズ導入の効果

⑤ 岩永専門家(家族計画·母子保健)報告

年 次 報 告

平成10年9月 ~ 平成11年10月 岩永 資隆

概 略

パンパンガ州とブラカン州の2州を担当した。パンパンガ州サンフェルナンド事務所の Mrs. Grace Dino が パンパンガ州出身で、両州政府の職員とも懇意であり、よく協力して対応できた。

パンパンガ州の保健局長は永らく空席で、局長代理(女性)は健康を害し降格させられ、新局長代理は臨 床医で州立病院長を兼ねており多忙なため連絡が取りにくいこともあった。

NGO との連携を推進する目的で、ブラカン州マロロス町のレジナ・カルメリ大学内に事務所を開設した。 同大学と、同州サンイルデフォンソ町の診療所を運営しているフィリピン子供病院に開発福祉援助のプロ ジェクト(山下 哲専門家担当)が入っているためである。同時に同町への引越しを検討したが、適切な 住宅が見つからなかったため、アンヘレス市から1時間かけて通勤した。そのため、アンヘレス市から2 時間以上かかるブラカン州サンイルデフォンソ町へは頻繁には通えなかった。

1. 村落協同薬局運営 (Botika Binhi)

数カ所の町保健所に働きかけたもののうまく協力が得られなかったパンパンガ州で、キリスト教長老派教 会のグループが2ヶ所に薬局を開設した。同グループは数カ所のピナツボ火山噴火被災者再定住地区に薬 局を開設したいとしている。さらに、既存のポーラック町の協同薬局と協力し、四半期ごとにワークショ ップを行っている。

ターラック州協同薬局連合が5周年を迎えた。

運営指導を依頼している SMBK の傘下の協同薬局が全国で 1,000 ヶ所を越えた。

ターラック州での活動についての第三者評価(Holy Angel University)を行っている。

2. 母子保健手帳 (MCH record book)

試作版が完成し、各州のパイロット地区と数ヶ所の NGO に配布した。

3. 乳幼児検診 (Under Five Clinic)

各州の保健局、パイロット地区の町保健所、NGOの職員をバギオ市の国立アンダー・ファイブ・クリニックに派遣して研修を行った。各州ではエコー研修と称して州レベルの研修を行った。

4. バランガイヘルスワーカー調査

短期専門家と協力し、プレテストを経て本調査を行い、レポートを作成した。

5. 家族計画研修

レジナ・カルメリ大学にて家族計画教育用教材(マグネル・キットとマギー・エプロン)の研修を行った。 参加者の中に3名の看護士がおり、男性による、男性を対象にした家族計画教育という新しい企画を考え られるようになった。

6. 母子保健研修

パンパンガ州にて栄養研修と助産婦の研修を行った。

7. 開発福祉援助プロジェクト

①プラリデール町立救急病院

医療機器(超音波診断装置、検査機器等)の設置が終わり、24時間体制を取り、入院を受け入れるように なった。外来患者数は安定してきている。さらに2階に手術室と外科病棟を増築の予定である。

4月に日本の AMDA での NGO 強化セミナーに参加した Mrs. Dolly Tizon が地方の弱小 NGO に同様のセミナーを行った。14団体の参加があり、終了後も2ヶ月に1回程度持ち回りでミーティングを行い、

LUZNNET というネットワークを設立した。

男性を対象にした家族計画の研修、ヘルスワーカーに対する母子保健の研修、トイレの少ない地区でのト イレ建設研修等を企画している。

② サンイルデフォンソ町立ピナオッド総合診療所

同じように医療機器(レントゲン撮影装置、検査機器等)の設置が終わり、月曜日から土曜日の外来診療 を行っている。

助産婦、ヘルスワーカーに対する母子保健研修を開始している。

トイレの少ない地区でのトイレ建設を企画している。

8. NGO との連携

ブラカン州カルムピット町のSKGKにてトイレ用コンクリート製土管作製研修を行った。その後同NGOでは30ヶ所にトイレを設置した。 ತっまれ気です こまかの、浜井戸

ReachOut Foundation が平成11年1月より6ヶ月間行った梅毒キャンペーン(血液抗体検査と陽性者に対するペニシリンの注射)にて採血等の指導を行った。

第三行政区内の保健関連のNGOと保健省、JICAによるフォーラムを行った。同地区では前例のない催し であるとのことで、継続して行って欲しいとの要請があった。

9. その他

平成10年11月~平成11年3月:レジナ・カルメリ大学にて保健学部理学療法学科の学生に週2回生理学の講義を行った。

パナイ島アンティケ州とアクラン州の UNFPA のプロジェクトを視察した。生計向上活動と、男性を対象に した家族計画活動など参考になるものがあった。

ブラカン州サンイルデフォンソ町より名誉町民証を受けた。



NUMBER OF PATIENTS, PINAOD CONPRHENSIVE COMMUNITY HOSPITAL, 1999

- 48 --



NUMBER OF PATIENTS, PLARIDEL EMERGENCY HOSPITAL, 1999

- 49 -

⑥ 小村専門家(母子保健)報告

年次報告

母子保健専門家 小村陽子

1. 乳幼児健診活動(6州)

全6州での研修が終了し、パイロット地域での活動が開始された。曽根短期専門家 とパイロット地域を視察した。今後、活動を定着させるための一つの方法として、カ ウンターパートと定期的にモニタリングすることとし、モニタリングリストを作成し た。結果をモニタリング時に保健所医師、看護婦、助産婦と話合い、活動が日常化さ れるよう働きかけている。

2. 母子手帳活動(6州)

母子手帳は、保健省が配布していた妊産婦用記録のピンクカードと乳幼児記録用の イエローカードと同じである。記録内容は、妊産婦記録、分娩時、産後そして、成長 曲線を含む乳幼児の記録が記入できる。乳幼児健診パイロット地域で、1999 年 5 月 より妊婦を対象に試用を開始した。

- 母親テレビ(タラック、ヌエヴァ・エシハ州)
 タラック州では、夕方、村で健康教育ビデオを週2回放映している。
 両州ともビデオは、母親学級で使用したり、ローカルテレビで放映されている。
- 4. 母親劇場(タラック、ヌエヴァ・エシハ州)
 タラック州は、BHW 連合会が中心メンバーで要請に応じて活動している。
 ヌエヴァ・エシハ州は、保健局職員が中心に要請に応じて活動している
- 5. 母親学級(ヌエヴァ・エシハ州)

カウンターパートが日本で受けた母子保健研修後、妊婦対象の母親学級の重要性を 認識し開始した。母親テレビ(Safe Motherhood, Nutrition)や「助産婦マニュアル」、 「乳幼児健診」、「マグネルキット、マギーエプロン」研修を活かし、助産婦が中心に 行っている。現在、2ヶ所の保健所、1ヶ所の郡病院で行われている。

6. 協同薬局 (タラック州)

SMBK を通じた支援から、タラック州協同薬局連合を通じた支援にシフトした。支援活動も4年を経過し、プロジェクトとして活動に活かすため、第三者評価を行った。 タラック州協同薬局数(1999年8月現在): 32ヶ所 7. 栄養調査(タラック州)

力丸短期専門家と共に、離乳食について生後3ヵ月から6ヵ月の乳児を持つ母親対 象に2週間アンケート調査を行った。それにより、妊娠期間中の体重管理や母親の栄 養状態、<u>離乳食</u>の開始時期や与え方に問題があることが明らかになった。今後の活動 に役立つ情報を得ることができた。

8. BHW 調査

BHW の属性、知識、将来的なニーズを得ることができた。今後の研修の立案に役立てる。

9. 村落データ・ボード支援(タラック州)

サン・ホセ町のデータ・ボードを支援している。住民が活動にどのように参加し、 データ・ボードをどのように地域に活かしていくかを、北原短期専門家も交えカウン ターパートと検討した。その結果、住民の理解を深めるため、ワークショップを開い た。

10. NGO 連携

タラック州でのBHW 生計向上ワークショップは、NGO「SINAG ARTS」と協力 して実施した。

ヌエヴァ・エシハ州ウェスレニアン大学看護学部は、パイロット地域を決め、保健 活動を行っている。人材育成のための研修や機材を提供した。

11. 青年海外協力隊フロントライン計画との連携

定期的に連絡会議を持ち、また機会ある度に隊員の活動現場を訪問し、意見交換を 行った。

12. 研修

タラック州

- ・ 乳幼児健診エコー・トレーニング
- ・助産婦マニュアル・トレーニング
- ・人形劇トレーニング
- ・BHW生計向上ワークショップ

ヌエヴァ・エシハ州

- ·乳幼児健診
- ・乳幼児エコー・トレーニング
- ・助産婦マニュアル・トレーニング
- ・マグネルキット
- ・ マギーエプロン・トレーニング
- ・人形劇トレーニング

平成 11 年度活動計画

母子保健専門家 小村陽子

活動内容

- 乳幼児健診活動(6州)
 定期的に全パイロット地域をカウンターパートとモニタリングしていく。
- 2.母子手帳活動(6州)
 定期的に全パイロット地域をカウンターパートとモニタリングしていく。
 妊産婦健診の質の向上を図る。
- 母親テレビ(タラック州)
 活動をカウンターパートと協議し、徐々にシフトしていく。
- 母親劇場(タラック、ヌエヴァ・エシハ州)
 技術の向上、新しいシナリオなどカウンターパートと協議しながら行う。
- 5. 母親学級(ヌエヴァ・エシハ州) 質の向上をカウンターパートと協議し、定期的な活動となるように支援していく。 な親9、参かりも本見す。
- 結婚前カウンセリング(タラック州) カパス町において従来から行われている結婚前カウンセリングに、乳幼児健診なういまを生 どの重要性を追加することをカウンターパートと協議しながら行う。これにより、 男性の理解と参加を図る。
- NGO 連携(ヌエヴァ・エシハ州)
 ウェスレイアン大学看護学部との連携。
- 8. 青年海外協力隊フロントライン計画との連携
- 9. 研修(6州)

カウンターパートと協議しながら行う。

母子保健セミナー:乳幼児健診・母子手帳パイロット保健所医師対象

バランガイ・ヘルス・ワーカーの知識・ニーズ調査

1. 目的

フィリピン家族計画・母子保健プロジェクトは地域展開型プロジェクトである。単に カウンターパートに保健技術を移転するだけでなく、地域住民の参加活動を促進し、包 括的に健康問題にアプローチしている。フィリピンにおいて、地域保健を担う助産婦を サポートしているのは、 ボランティアの BHW (バランガイ・ヘルス・ワーカー) であ る。BHW の活動が住民の健康に及ぼす影響が大きいため、本調査は、彼らの知識、活 動、ニーズを知り、今後の活動を企画する上で資料とする。

2. 方法

パンパンガ州、タラック州、ザンバレス州のバランガイ(村落)の中から、各州 50 ケ所を系統抽出で選び調査した。調査は1999年2月現在のものである。調査人数は各 バランガイから5~10人、1州につき300人程度とし、タガログ語の調査票を用いた自 記式調査とした。調査員には、あらかじめ研修を行い、質の確保を図った。調査事項は 1)BHWの属性、2)家族計画と母子保健の知識、3)医療供給とニーズ、4)BHW の役割、5)過去5年間の家族計画、母子保健トレーニングへの出席状況とした。

3. 結果

BHW の多くは、40歳代の既婚女性であった。助産婦や公務員などからの推薦により BHW となったケースが多く、平均して少なくても10年、BHW として働いている人が ほとんどであった。教育レベルは、約50%の人が高校卒業以上の学歴を有していた。宗 教は、ほとんどがカソリックであった。3/4の BHW がバランガイの予算から、平均 して月に100~200ペソの報酬を得ていた。

家族計画・母子保健の知識調査では、知識不足だという結果が出ている。家族計画分 野より、特に母子保健に関する部分の知識不足が目立っていた。基礎的な知識でさえ不 足していた。家族計画・母子保健に関する知識は、半分のBHWが保健所で行う研修か ら得たと答えていた。彼らの出席した研修は、最も多いのが「基礎 BHW 研修」、次に 「薬草(Herbal Medicine)」、「栄養」、「母乳」、「家族計画」と続いた。希望の多い研修 は、「基礎 BHW 研修」、次に「家族計画」、そして「薬草」であった。

医療供給の調査項目では、90%以上が供給不足を訴えた。これにより、BHW は応急 手当さえ行うことが出来ず、住民の信頼を得るのが難しい状況である。

以上のことから、BHW は、住民に一番近いところにいて、一度 BHW になったら、 長期間継続して活動すると言う特性を持つので、家族計画・母子保健の BHW 研修は、 地域保健レベルの向上につながる有効な方法であることがわかった。

乳幼児健診活動

乳幼児健診は、バギオ総合病院の小児科医師 Dr. Natividad Relucio-Clavano により 1975 年より始まり、1979 年より保健省のプログラムとなった。

乳幼児健診は、総合的な乳幼児への保健サービスである。保健サービスは、成 長曲線により、乳幼児の成長発達を継続的に観察していくことを基本とし、貧 血の発見、栄養(母乳栄養促進、離乳食)、下痢疾患、呼吸器疾患、予防接種、 家族計画などが含まれる。活動の大きな特徴として、情報を1枚のカード(イ エローカード)に記入、両親が保管し健診時持参することや、両親が成長曲線 により、子供の成長を理解し易くなり、両親の積極的な育児への参加が促され ることがある。

プロジェクトでは、フェーズII開始前調査時、第3行政区保健局より乳幼児健 診活動への協力要請があり、協議の結果活動開始が決定した。乳幼児健診活動 は、1979年以来、保健省のプログラムとなったが、継続して実施している所は ほとんどなく、医療従事者へ再度のトレーニングが必要な状態であった。その ため、1998年2月のタラック州保健局職員を中心としたトレーニングを皮切り に、各州保健局職員やNGOにトレーニングを研修施設があるバギオ総合病院で 実施した。そして各州保健局で、保健局職員が保健所医師、看護婦、助産婦に それぞれエコートレーニングを行った。全エコートレーニングが終了後、各州 でパイロット地域を決め、体重計などの必要な機材の提供し、重点的に活動を 保健局とともに支援してきた。また、改訂版母子手帳の試用も同じ地域で1999 年5月から開始した。二つの活動は連動している。

パイロット地域は各州、各地域で特色があり、保健所、保健局の対応の違いが ある。このような中、活動を定着させるための方法として、各地域を定期的に モニタリングすることした。基本的なチェックリストを作成し、第3行政区保 健局担当者、保健局担当者と活動が適正に行われているかモニタリングし、モ ニタリング後は、保健所職員と話し合い、活動が住民にとって日常的な保健サ ービスとなるように支援している。活動も半年を経過し、それぞれ特徴が出て きている。そのため、活動報告や情報交換、勉強会を目的としたパイロット地 域の保健所医師対象のセミナーを、現在企画中である。

1999年11月

年次報告

(概 要)

フィリピン家族計画・母子保健プロジェクト(II)

WID·啓蒙普及専門家 佐藤 祥子

1. 活動実績(終了分)

◇家族計画・母子保健におけるジェンダー調査

◇乳幼児健診研修

◇村落保健ボランティア(BHW)研修

◇妊産婦栄養研修

◇母親劇場(Teatro 99)研修

◇第二国研修「ジェンダーと開発」研修監理

◇「女性の健康と開発」フォーラム

◇二国間技術交換プログラム

2. 活動実績(継続分)

◇乳幼児健診活動
 ◇村落協同薬局活動
 ◇母親劇場(Teatro 99)活動
 ◇衛生トイレ制作活動(トーサン・プロジェクト)
 ◇男性保健ボランティア養成研修
 ◇思春期保健プログラム
 ◇保健従事者に対するジェンダー研修

3. 活動計画·指針

☆保健活動への男性の積極的な参加の促進
 ☆思春期保健を含むリプロダクティブ・ヘルスの促進
 ☆ "ジェンダーに敏感な"保健従事者の育成

1999年11月

年 次 報 告

フィリピン家族計画・母子保健プロジェクト(II) WID・啓蒙普及専門家 佐藤 祥子

平成10年度、11年度11月までの活動実績

平成10年7月に、WID・啓蒙普及専門家として本プロジェクトに着任し、バターン州保健局内の プロジェクト事務所に勤務することとなった。バターン州保健局は、プロジェクト事務所の設置以 来、JICA専属のスタッフと運転手各1名を提供している。これは、プロジェクト事務所におけるロー カルコスト負担の初めての試みである。バターン事務所は、リージョンIII内のバターン州とザンバレ ス州を管轄しており、各種研修事業や機材供与の調整を行っている。

また、専門のWID・啓蒙普及に関しては、ジェンダーに特化した活動を行うかたわら、プロジェクトとしてすべての活動に一層のジェンダー配慮が推進されるべく(メインストリーミング)、カウンターパートおよび他の専門家と連絡を密にしている。

(1)調査、モニタリング、評価活動

平成10年度

家族計画・母子保健におけるジェンダー調査

ヌエバ・エシハ州にあるウェスレイアン大学と共同で、家族計画・母子保健におけるジェンダー調 査を実施した(98年10月-99年3月)。調査の概要は別紙の通りであるが、調査の結果、これ からの家族計画・母子保健活動では、1)青少年に対する教育、2)男性の積極的な参加、3)女性 の過重労働への配慮といった要素を強化する必要があることがわかった。この結果をもとに、後述の 思春期ヘルスプログラム、男性保健ボランティア活動を企画した。

平成11年度

乳幼児健診活動・母子手帳活動モニタリング

乳幼児検診活動のパイロット地域で、州保健局職員とともにモニタリングを実施している。乳幼児 健診が日常業務の一環として行われているかをチェックして、改善していくための活動で、体重計が 設置されているか、母子手帳が使用されているかなどをモニタリングしている。7月には曽根智史短 期専門家(母子保健)、小村専門家と共に、モニタリング・チェックリストを整備し、PRCEDE-PROCEEDモデルを用いてモニタリングの目的を確認した。また、母子手帳を配布した母親のデータを 定期的に収集している。

(2)保健従事者への継続教育

平成10年度

<u>乳幼児健診研修</u>

バターン州、ザンバレス州の保健従事者に対し、バギオ総合病院乳幼児クリニックで、乳幼児健診 研修を実施した。州保健局職員及びMHO(町保健所長)に対する指導者研修と、看護婦、助産婦に対 するエコー研修を行うことで、知識や技術の定着を図った。

・バターン州:指導者研修(9月29日-10月1日)、エコー研修(2月1日-2月5日)

・ザンバレス州:指導者研修(2月15日-2月20日)、エコー研修(3月22日-3月26日) 研修終了後、バターン州はオラーニ町、アブカイ町を、ザンバレス州はスービック町、サン・マル

セリーノ町をパイロット地域とし、母子手帳を利用した妊産婦健診、乳幼児健診を実施している。

<u>母子保健研修</u>

バターン州の助産婦に対し、母子保健研修を実施した(3月8日-11日)。受講者は、出産後の 縫合など、医師が不在または間に合わない場合の具体的な処置技術に関心を寄せていた。

<u>村落保健ボランティア(BHW)研修</u>

バターン州、ザンバレス州合同で、村落保健ボランティアの能力向上を目指した研修を実施した (第1回:2月22日-26日、第2回:3月8日-12日)。第1回はバターン州保健局、第2回 はザンバレス州保健局がそれぞれ主催したため、両州の州保健局職員の技術交換にもなった。

今回は、僻地に在住していて、研修歴が浅いボランティアを対象とした。関心の高かった分野は薬 草と結核であった。ジェンダー、特に女性の地位とそれが健康に与える影響について講義を行った。

平成11年度

好産婦の栄養と乳幼児健診研修

カ丸徹短期専門家(栄養)の指導の下、バターン州保健局の職員に対して妊産婦の栄養に関する研修を実施した(6月22日)。妊産婦の栄養状態を測る計算方法が紹介され、バランガ町の保健所で 妊産婦の身体測定を行った。その結果、多くの妊婦が理想体重以下であることがわかり、栄養指導の 必要性が指摘された。

また、バターン州の助産婦を対象にエコー研修を実施した(9月27日-30日)。

乳幼児発達テストプログラム

バターン州保健局長であったバンソン医師の発案で、乳幼児健診に行動面の発達テスト(DDST: Denver DevelopmentScreening Test)を組み入れることになり、関係者を集めて式典を行った(7 月12日)後、州保健局の予算で職員に対する研修が実施された(9月20日)。また、乳幼児健診 活動パイロット地域であるアブカイ町の助産婦に対する研修を実施した(10月26日)。

(3)施設と機材の改善

平成10年度

バターン州、ザンバレス州の乳幼児健診活動パイロット地域に対して、各バランガイ・ヘルスス テーション(BHS)に吊り下げ式体重計とバスケットを供与した。また、ドップラー、ネビュライ ザー、血圧計等の機材供与を実施した。ドップラーは妊産婦健診の受診動機を高めると評判が高い。

平成11年度

研修やアドボカシー活動で利用するために、州保健局に対してデジタルカメラ、ビデオプロジェクターなどのIEC機材を供与した。母親劇場の活動を支援するため、ワイヤレスマイクを供与した。

妊産婦の栄養と乳幼児健診研修の実施にあわせ、成人用の体重計をバターン州の10カ所のBHSに 供与した。成人用の体重計がないため、妊産婦の栄養状態を測定できないBHSが多い。

(4)住民参加による地域保健活動の活性化

平成10年度

村落協同薬局活動

ザンバレス州の村落保健ボランティアに対して、協同薬局運営研修を実施した(8月3日、12月 10日)。ザンバレス州では、研修を受けたボランティアが他のボランティアを勧誘して、独自に研 修を行い、新規の協同薬局を設立している。

<u>衛生トイレ製作活動(TOSAN@ROJECT)</u>

衛生的なトイレが各家庭に備わっておらず、住民の健康が阻害されている地域に、安価で作製できるコングリートパイプの製作指導をする活動である。岩永専門家の発案で、ターラック州から講師を招き、ブラカン州のNGOであるSKGKと共同で研修を行った(1月27日)。バターン州からは、NGOのPRRMのスタッフと住民代表が参加した。

参加者の大半は男性であるため、この活動は単なるトイレ製作にとどまらず、男性の健康活動への 参加を促す(ジェンダー配慮)という点で評価できる。タガログ語でコンクリートパイプをTOSANG ということから、日本語のお父さん(トーサン)とかけて、TOSAN(PROJECTと命名されている。 また、トイレ製作を通じて、自分の住む環境や衛生について話し合うので、健康教育の側面も合わせ 持っている。

平成11年度

村落協同薬局活動

ザンバレス州の村落保健ボランティアは、10年度に当プロジェクトによる研修を受けた後、村落 協同薬局連合を組織し独自に研修を実施して、村落協同薬局を州内に拡大していった。7月には村落 協同薬局連合としてNGOの登録を済ませた。登録会員は100名近く、薬局の開設数も60あまりと なった。しかし、薬に関する知識がまだ十分ではないため、薬の効用や正しい服用法に関する研修の 要請があり、薬剤使用法講習会を実施した(7月30日)。

衛生トイレ製作活動(TOSANOPROJECT)

10年度のブラカン州での研修に参加した、バターン州のNGO、PRRMのスタッフが講師となっ て、バターン州オリオン町でコンクリートパイプ製作研修を実施した(7月18日)。当該地域は JQCVの西村隊員の活動地域でもあり、海岸沿いにビサヤ地方からの移民が多く住み、衛生状態が非 常に悪い地域として知られている。55世帯に衛生トイレが設置される予定である。

<u>思春期保健プログラム</u>

家族計画、リプロダクティブ・ヘルスの分野では、カイロで開催された国際人口会議以降、青少年 への働きかけが重要視されている。また、前年度にプロジェクトで行ったジェンダー調査でも、19 歳までの比較的早い時期に初めての性交渉を体験している人が多く、しかしながらそのほとんどは妊 娠や避妊に関する知識を持っていないことが分かった。そこで、当プロジェクトにも思春期保健の要 素を取り入れるべく、リージョンIII全体から青年リーダーを約30名集めて、ニーズ・アセスメント・フォーラムを開催した(9月23-24日)。フォーラムでは、10代での妊娠、タバコといった身体的な健康問題から、家族や友人との関係に悩む精神的な健康問題などが話し合われた。

(5) IEC教材の作成と普及

平成10年度

母親劇場(Teatro99)研修

保健従事者による人形劇を通じての健康教育を推進するために、バターン州、ザンバレス州合同の 母親劇場(Teatro99)研修を実施した(8月17日-21日)。バターン州からは保健所の職員が 参加したため、地方自治体から予算の配布を受けて活動を続けている。村落保健ボランティアの参加 が多かったザンバレス州では、移動にかかる費用や車輌の手配に困難が生じている。

麻疹撲滅キャンペーンビデオ

麻疹撲滅キャンペーンに際し、バターン州知事家族出演のキャンペーンビデオを作製し、地元の ケーブルテレビで放映した。

平成11年度

母親テレビ(Teatro99)の普及

プロジェクトで作製した母親テレビ(Teatro 99)ビデオが、長距離バスの車内で放映されるよう 調整した。また、バターン州ではデング熱がたいへん流行しているため、学校や住民集会でビデオが 活用されている。

思春期ビデオの活用

9月に実施した思春期ヘルス・ニーズ・アセスメント・フォーラムで、思春期ビデオを用いてディ スカッションを実施した。参加者である青少年グループのリーダーからは、それぞれの所属する団体 で思春期ビデオを使った活動を行いたいとの希望が寄せられた。

(6)ジェンダーと開発

平成10年度

第二国研修「ジェンダーと開発」研修監理

人口委員会が主催し、公務員を対象に行われた「ジェンダーと開発」研修に監理者(スーパーバイ ザー)として参加した(10月11日-31日)。

<u>ジェンダー研修講師</u>

各種の研修にジェンダーの講師として参加した。バターン州人口委員会主催:ヘルモサ町(11月 18日)、マリベレス町(11月20日)、NGOのWorld/ision(2月12日)。

「女性の健康と開発」フォーラム開催

女性の健康と開発をテーマに、州ごとのフォーラムを積み上げ、リージョンIIIでの開催につなげた (3月23日)。州ごとのフォーラムでは、各セクターの代表が女性にまつわる問題や解決策を話し 合った。また、リージョン規模のフォーラムでは女性町長で、ごみ削減運動や女性銀行などの活動で 有名なターラック州のモンカダ町長が基調講演を行った。

平成11年度

<u>男性保健ボランティア養成研修</u>

平成10年度の技術交換プログラムで、UNFPAの活動を視察したバターン州の助産婦から、家族計画とリプロダクティブ・ヘルスの普及のための男性保健ボランティア養成の提案があった。従来の家族計画セミナーでは、助産婦を通じて女性に働きかける機会が多く、知識や情報の不足から家族計画に対して抵抗感を抱く男性が少なからず見受けられた。言うまでもなく、家族計画は女性だけの責任ではないので、男性に対しても十分な情報を提供していく必要がある。

技術交換プログラムに参加した助産婦のバランガイ4カ所を選び、州保健局員による住民男性に対 する研修を実施した(サマル町:8月9日、リマイ町:10日、オリオン町:9月14日、バガック 町:15日)。研修の結果、避妊技術だけでなく、妊娠出産が危険な年齢や、妊娠の間隔をあける必 要性など、基本的な知識も欠けていることがわかった。

ジェンダー/リプロダクティブ・ヘルス研修

バターン州の6つのRHUで、助産婦をはじめとした保健従事者に、ジェンダーに配慮した保健サービスとリプロダクティブ・ヘルスに関するオリエンテーションを実施した。(10月-11月)

女性の置かれている状況と、それが健康に与える影響について議論した。リプロダクティブ・ヘル スの考え方に関しては、末端の保健従事者ではまだまだ理解されておらず、一層の研修や情報提供が 求められている。

(7) その他

平成10年度

国民参加型活動

岡山県加茂川町の町長一行がバターン州を訪問し、保健活動の視察や、地元の政治家との懇談を 行った(8月25日)。加茂川町はAMDAと協力関係にあり、町長はバターン州の保健職員が研修で 日本を訪れた際、ホストファミリーを引き受けてくれた経緯がある。

「国際協力」誌取材協力

「国際協力」誌の取材に応え、家族計画・母子保健プロジェクトが紙面に取り上げられた。

AMDAジャーナル原稿提供

活動現場でのエピソードを原稿にまとめ、AMDAジャーナルに提供し、計3回掲載された。

リージョン川保健局長技術交換プログラム

ニエット地域保健局長および6州の保健局長と共に、国内技術交換のためダバオ市へ出張した(3 月17日-19日)。ダバオ市にある地域保健局および関連施設を訪れ意見交換をするとともに、通 常は多忙でなかなか時間のとれないリージョンIIIの保健局長らと今後の活動について話し合った。

平成11年度

FLI (FrontLineInitiative) との連携

バターン州に派遣されている西村三由紀隊員と協力して、ニーズ・アセスメントを行い、衛生トイレ制作活動を、彼女の任地であるオリオン町で実施した。ザンバレス州の高島恭子隊員とは、村落保健ボランティア研修、村落協同薬局運営研修で協力した。地域住民と密接な活動を行っている協力隊 員から寄せられる情報は貴重である。同時に、協力隊の活動ではまかないきれない研修事業などの面でプロジェクトがサポートできることも多い。

また、新規の協力隊員の派遣を要請していたバターン州のバガック町、アブカイ町と山田シニア隊 員、斉藤調整員の間を調整した。それぞれ来年の4月からと7月から看護隊員が派遣されることに なっている。

JICA専門家養成研修(ジェンダーに配慮した貧困対策コース)

養成研修の一環としてでフィリピンを訪れた研修生を、ターラック州に案内した(7月25日)。 ターラック州保健局長との懇談、保健施設の視察の後、モンカダ町の女性銀行で、小規模融資のプロ ジェクトを見学した。

バターン州保健局長異動

バターン州保健局長を13年にわたって勤めてきたバンソン医師が、5月末をもってリージョン の地域保健局長に異動した。後任には、バターン州の石油精製工場で企業医をいていたロッケ医師が 任命された。バンソン医師は公衆衛生が専門で、リージョンIII内でも活動的な保健局長であった。

二国間技術交換プログラム

リージョンIII保健局のマルセロ医師、バターン州保健局のフーア医師、小村専門家と共に、ベトナムのリプロダクティブ・ヘルス・プロジェクトを訪問した(9月12日-18日)。当該プロジェクトは、人口250万人のゲアン省の中から約半分に当たる9つのディストリクトをパイロット地域として、助産婦の再教育、保健サービスのモニタリングの強化活動を行っている。日本人の専門家は リーダー、調整員を含めて3人で、プロジェクトの規模は小さい。

フィリピン側のカウンターパートは、ベトナムの保健行政が地方分権化されていないこと、国家体制が社会主義であること、法令化されていないが子どもの数を2人までに制限していること、中絶が頻繁に行われていることなど、当初は自国との違いの大きさに注目していた。しかし、施設分娩の推進、助産婦の再教育、地方自治体を巻き込んだ保健サービスのモニタリングなどは、フィリピンでも同じ課題を抱えているためたいへん参考になった。

2. 今後の活動計画

プロジェクトも3年目に入り、終了まで残すところ2年半となった。今後は新規の活動を増やすこ とよりも、既存の活動のモニタリング、強化が中心になると考えられる。また、州によって健康指 標、保健施設の充実度、経済発展の度合い、産業、保健局職員の資質などがことなるため、全州で同 じ活動をするよりも、各州のニーズにあった活動が求められる。ザンバレス州は、6州の中でもっと も貧しく、健康指標も低いが、村落保健ボランティアを中心にした住民活動は盛んである。バターン 州は、州保健局職員の働きがめざましく、NGOとの連携による活動も成果を上げている。 (1)調査、モニタリング、評価活動

乳幼児健診活動・母子手帳活動モニタリング

州保健局職員を主体にした乳幼児健診活動モニタリングを継続する。99年5月から開始した母子 手帳活動の効果、改善点も継続的に評価していく。

(2)保健従事者への継続教育

村落保健ボランティア(BHW)研修

レジーナ・カルメリ大学と共同で開発したマニュアルを利用し、村落保健ボランティア調査で明ら かになったボランティアの保健に関する知識、技術の不足を強化する研修を、バターン州、ザンバレ ス州で行う。

妊産婦の栄養と乳幼児健診研修

母子手帳活動では、乳幼児健診だけでなく、妊産婦健診から継続して記録する必要があるが、保健 従事者によって、妊産婦健診の技術はまちまちである。母子手帳に記載されている検査項目の意義、 検査技術を中心に、妊産婦健診の質の向上を図る研修を実施する。

(3)施設と機材の改善

無償資金協力により、各州に母子保健センター(1)、RHU(3)、BHS(10)が供与される予 定である。

(4)住民参加による地域保健活動の活性化

村落協同薬局活動

ザンバレス州で拡大を続ける村落協同薬局活動を支援する。具体的には、モニタリング、調整を行 う村落協同薬局連合の機能の強化、運営や薬剤に関する継続的な研修の実施などである。

バターン州では、NGCのPRRMの監督のもと活動している協同薬局12カ所に、薬のサポートを行う。この薬を販売して得た利益で、持続的に協同薬局の運営が行われるように指導する。

<u>衛生トイレ製作活動(TOSAN@ROJECT)</u>

保健局による衛生トイレ設置キャンペーンが終了したため、コンクリートパイプの上にのせる便器 の無料配布が受けられなくなった。今後は住民負担で便器の購入が可能かどうかを検討して活動をす ることが望ましい。また、コンクリートパイプが適している地域は、砂地で海水などの塩分が多く、 ドラム缶を使用できない地域に限られているため、新たに設置を希望する地域は少ないと思われる。

思春期保健プログラム

ニーズ・アセスメント・フォーラムの結果を検討し、青少年を中心にした住民活動を組織する。バ ギオ市、ヌエバ・エシハ州のカバラトゥアン市などにある既存の青少年センターと連携して、ピア・ カウンセリング、リーダーシップ・トレーニングなどの研修を実施する。

(5) IEC教材の作成と普及

<u>母親劇場(Teatro99)活動</u>

10年度の研修終了後、上演活動を続けているバターン州の2つのグループを支援していく。ザン バレス州では州保健局の協力が得られるよう調整する。

思春期ビデオの活用

思春期ヘルスプログラムで、ビデオをきっかけとしたディスカッションを行う。また、現場からの 反応をIEC専門家にフィードバックしていく。

(6)ジェンダーと開発

保健従事者に対するジェンダー研修

保健省の女性の健康担当官によると、保健従事者は、男女の身体的な差異に詳しいため、一般の人 よりも強いジェンダーバイアスを持っていることが多いそうである。保健サービスに関しても、プロ バイダー・サイドの利便が優先されており、患者のプライバシーや羞恥心に対する配慮が少ない。そ こで、州保健局の女性の健康担当者と協力して、主に町レベルの保健従事者に対してジェンダー研修 を行う。また、保健省の女性の健康部門と連携して、保健従事者に対するジェンダー配慮のマニュア ルを作製する。

<u>男性保健ボランティア養成研修</u>

バターン州で行われた4回の研修から、男性への家族計画、リプロダクティブ・ヘルス研修は非常 に効果が高いことが分かった。10年度の技術交換プログラムに参加した助産婦を中心に、この活動 を6州全体に拡大していく。研修を修了した男性保健ボランティアの具体的な活動内容について、他 の専門家も交えて検討していく。

(7) その他

<u>カウンターパート研修</u>

11年度はザンバレス州保健局から2名が、日本で行われる研修に参加している。この州は、州保 健局からの協力が得られないことが多いので、今後は研修に参加する2名を中心としてプロジェクト との協力関係を強化していく。

FLI (FrontLineInitiative) との連携

バターン州に派遣されている西村三由紀隊員は2000年4月、ザンバレス州の高島恭子隊員も7 月をもって任期が終了する。その後、各州とも2名の新規隊員が派遣される予定である。今後も相互 補完的に協力を進めていく。

3. 付属資料

別添1:家族計画・母子保健におけるジェンダー調査概要(1頁)

家族計画・母子保健におけるジェンダー調査概要

1. 目的

フィリピン家族計画・母子保健プロジェクト(II)は、カウンターパートの大多 数が女性であり、また受益者も母親が想定される場合が多く、女性の積極的な参加 が促されているプロジェクトである。しかし一方で、リプロダクティブ・ヘルスの 促進には、女性に対する働きかけだけでなく、男性の参加が重要であることが明ら かで、家族計画・母子保健分野における男女の知識、考え方、行動の違いを調査 し、今後の活動を企画するための基礎資料とする。

2. 方法

バターン州、ヌエバ・エシハ州在住の、15歳から49歳までの再生産年齢(リ プロダクティブ・エイジ)にある男女カップルを、産業別(農業、漁業、工業)に 系統抽出で選び調査した。調査人数は1州につき150組の合計600名とした。 調査方法は、タガログ語の質問票を用いた面接法をとった。調査員にはあらかじめ 研修を行い、質の確保を図った。

調査事項は、対象者の属性、妊娠、出産、家族計画、結婚前の性交渉、育児、家 事労働の分担、HIV/STD、家庭内暴力と多岐にわたり、同じ質問を男女カップルにす ることによって、男女の知識、考え方、行動の違いが明らかになるようにした。

3. 結果

調査対象となった男女の約半数(男性50%、女性47%)は、19歳までの比較的早い時期に初めての性交渉を行っており、男女間の差は少ない。しかし、結婚前に性交渉があったと答えているのは、男性70%、女性41%と大きな違いが見られた。この中で、妊娠や避妊に関する知識を持っていたのは35%ときわめて低く、結婚前の性交渉の結果として男性29%、女性46%が妊娠を経験している。

家族計画の方法については、93%の人が何らかの形で知っていると答えており 60%の人が避妊を行っていると答えていることから、かなり高い率で受け入れら れていることがわかった。避妊を行わない理由は、「妊娠中である」、「子どもを 望んでいる」が大多数を占めている。しかし少数ながら「副作用が心配なので避妊 を行っていない(妻に行わせていない)」とする男性や、「配偶者(夫)の反対」 のために避妊を実行できないとしている女性がいることは見逃せない事実である。 家族計画に関する知識、セミナーへの出席経験は、わずかに女性の方が多かった。 「家族計画には夫婦で責任を持つべき」と答えた人は76%にのぼった。

家事労働、育児の分担は、ほとんどの女性が賃金労働に携わっているにもかかわ らず、掃除、洗濯、料理などの家事労働および育児を一手に引き受けていることが わかった。女性の妊娠中もこの役割分担は変わらず、唯一、妻の出産直後の期間だ けは夫が一時的にこれらの仕事を引き受けている。子どものいない家庭でも、妻が ほとんどの家事労働を行っていることに変わりはなかった。

今回の調査結果をもとに、これからの家族計画・母子保健活動では、1) 青少年 に対する教育、2) 男性の積極的な参加、3) 女性の過重労働への配慮といった要 素を強化する必要があることがわかった。
DOH-JICA FP/MCH Project - Phase II

JOINT COORDINATING COMMITTEE MEETING 1 December 1999 Angeles City, Pampanga

LIST OF PARTICIPANTS

JAPANESE-SIDE:

Members of the Japanese Management Consultation Team:

Dr. Toshitaka NAKAHARA Professor, Graduate School of Medicine, Department of Public Health, Kyoto University

Dr. Seiji UTSUMI Professor, Faculty of Human Sciences, Osaka University

Japan International Cooperation Agency:

Mr. Tomoya YOSHIDA JICA Assistant Resident Representative

Mr. Tomomichi YAMADA JOCV Senior Officer

FP/MCH Project Experts and Staff :

Dr. Motoyuki YUASA Project Director

Mr. Akio TAGUCHI IEC Expert

Dr. Suketaka IWANAGA JICA Expert

Ms. Cecilia MARAVE Project Officer

Mr. Tyrone RABAGO

Mr. Rodel VICTORIA

Dr. Shigeru SUGANAMI President, Asia Medical Doctor's Association (AMDA)

Mr. Tomoo KANEKO Staff, Planning Division, Medical Cooperation Department, JICA

Mr. Tetsuo YAMASHITA JICA Long-Term Expert

Mr. Akira NARUSE Project Coordinator

Ms. Yoko KOMURA JICA Expert

Ms. Shoko SATO JICA Expert

Ms. Grace DINO Project Officer

Ms. Ma. Therese FABIAN

Mr. Cecil CINENSE

Ms. Marites DE CASTRO

Ms. Marites CASIANO

Ms. Ma. Rosario Gracia GAMET

Mr. Carmelino MICLAT

Mr. Rico REYES

PHILIPPINE-SIDE:

Department of Health - Regional Health Office No. III:

Dr. Ethelyn NIETO Regional Director

Mr. Orencio MALONZO LGAMS Coordinator

Ms. Elenita CARREON Public Information Officer II

Bataan Provincial Health Office:

Dr. Ruben ROQUE Provincial Health Officer

Ms. Marcelina RODRIGUEZ Nurse III & Training Coordinator

Bulacan Provincial Health Office:

Dr. Eduardo VALENCIA Provincial Health Officer

Pampanga Provincial Health Office:

Dr. Ernesto SANTOS Provincial Health Officer

Nueva Ecija Provincial Health Office:

Dr. Felicisimo EMBUSCADO Asst. Provincial Health Officer

Tarlac Provincial Health Office:

Dr. Ricardo RAMOS Provincial Health Officer Dr. Gloria PUNZALAN Regional MCH Coordinator

Ms. Alma Marie GOMEZ Health Education & Promotion Officer II

Dr. Juliana MARCELO Medical Specialist II

Dr. Esperanza FUA Rural Health Physician

Ms. Zenaida RAMOS Health Education & Promotion Officer II

Ms. Frida ELEFANE Nurse IV & MCH Coordinator

Ms. Alice MIRANDA Health Education & Promotion Officer I

Ms. Liza Jane DE LEON Nurse I

Mr. Victor REYES Sanitary Inspector & TV 99 Coordinator

Other Cooperating Government Agencies:

Ms. Aurora JOSON Chief, Economic Development Specialist National Economic & Development Authority - Region III

Mr. Marcial TERRADO Regional Director Commission on Population - Reg. III

Ms. Myrna APOSTOL Department of the Interior & Local Government - Region III Mr. Victor VALENCIA Division Medical Officer Department of Education, Culture & Sports - Region III

Mr. Rodolfo FERAREN Regional Director Department of the Interior & Local Government - Region III

Non-Governmental Organizations/ People's Organizations:

Dr. Luz Revita- CRUZ Children's Medical Center Philippines/ Project Director, Pinaod Community Comprehensive Health Clinic

Ms. Aleja BELJAMIN Philippine Rural Reconstruction Movement - Bataan Branch

Ms. Rosemarie HERRERA Executive Director Nutrilinc Mrs. Esther UMALI-CALALANG President Samahang Kababaihan ng Gatbuca sa Kaunlaran (SKGK)

Mr. Ernesto ROSALES Philippine Rural Reconstruction Movement Bataan Branch

INPUTS: JAPANESE-SIDE

1. JAPANESE EXPERTS

Long-Term:

1.1 Chief Advisor - (2)
 Dr. Kyo HANADA (04/1997 - 09/1999)
 Dr. Motoyuki YUASA (09/1999 +)

1.2 Coordinator (2)
 Mr. Kenji IKARI (04/1997 - 08/1999)
 Mr. Akira NARUSE (08/1999 +)

1.3 IEC (2)
 Mr. Akio TAGUCHI (04/1997-03/2000)
 Ms. Ayako NAKAMORI (04/1997 - 03/1998)

1.4 FP/MCH (1) Dr. Suketaka IWANAGA (04/1997- 03/2000)

- 1.5 MCH (1) Ms. Yoko KOMURA (07/1998+)
- 1.6 Gender & Development (1) Ms. Shoko SATO (07/1998+)

Short-Term:		· ·	
NAME	EXPERTISE	ARRIVAL	DEPARTURE
1. Dr. Tomofumi SONE	Public Health	31-Mar-97	18-Apr-97
2. Dr. Shinki TAKEMURA	Primary Health Care	19-May-97	18-Apr-97
3. Ms. Yoko SUZUKI	Women in Development	27-Oct-97	15-Nov-97
4. Mr. Toru SUZUKI	Statistics	17-Nov-97	06-Dec-97
5. Dr. Tomofumi SONE	Public Health	06-Jan-98	24-Jan-98
6. Mr. Mutsumi MIYAGI	IEC	08-Feb-98	28-Feb-98
7. Ms. Miki MIURA	FP/MCH	16-Feb-98	28-Feb-98
8. Dr. Masahiro TANAKA	Primary Health Care	26-Feb-98	13-Mar-98
9. Dr. Shinki TAKEMURA	Primary Health Care	16-Jul-98	07-Aug-98
10. Dr. Tomofumi SONE	FP/MCH	22-Jul-98	12-Aug-98
11. Ms. Ayako NAKAMORI	IEC	03-Aug-98	31-Aug-98
12. Dr. Toru RIKIMARU	MCH/Nutrition	01-Oct-98	30-Nov-98
13. Ms. Misao MORI	Primary Health Care	11-Nov-98	24-Nov-98
14. Mr. Toru SUZUKI	Statistics	18-Jan-99	30-Jan-99
15. Dr. Toru RIKIMARU	MCH/Nutrition	07-Jun-99	04-Jul-99
16. Dr. Tomofumi SONE	FP/MCH	22-Jul-99	17-Aug-99
17. Dr. Kazunari SATOMURA	Primary Health Care	22-Jul-99	17-Aug-99
18. Ms. Midori KITAHARA	FP/MCH	20-Sep-99	19-Nov-99

2. EQUIPMENT

2.1 medical equipment and supplies

-Home delivery kits

-Under-Five Clinic equipment

-Magnel Kit

-Maggie-the-Apron

2.2 IEC equipment & other related equipment

-Projector

-Electronic white board

-Sound system

-Computer system, including software

-Office equipment (facsimile machine, copier, typewriter)

3. COUNTERPART TRAINING IN JAPAN

NAME	POSITION/OFFICE	DATE
FP/MCH: (6)		
1. Ms. Marcelina C. RODRIGUEZ	Nurse III/Training Coordinator-	23-Mar-97 to
	Bataan PHO	27-Apr-97
2. Ms. Frida ELEFANE	Nurse IV/MCH Coordinator-	23-Mar-97 to
	Bulacan PHO	27-Apr-97
3. Ms. Alice MIRANDA	Health Education & Promotion	21-Feb-99 to
	Officer I - Pampanga PHO	28-Mar-99
4. Ms. Ma. Aurora DE GUZMAN	Nurse IV- Nueva Ecija PHO	21-Feb-99 to
		28-Mar-99
5. Ms. Leonila PADUA	Nurse III - Zambales PHO	09-Nov-99 to
		05-Dec-99
6. Ms. Aurora FONTELERA	Midwife IV - Zambales PHO	09-Nov-99 to
		05-Dec-99
IEC: (4)		
1. Ms. Zenaida RAMOS	Health Education & Promotion	08-Jan-98 to
	Officer - Bataan PHO	24-Apr-98
2. Mr. Edgar HILARIO	Information Officer III -	23-Feb-98 to
	DOH/PIHES	20-Mar-98
3. Ms. Elenita CARREON	Information Officer II - Regional	07-Jan-99 to
	Health Office III	30-Apr-99
4. Mr. Fedelino MENDOZA	Information Officer I - DOH/PIHES	16-Feb-99 to
		30-Mar-99
Nominated for JFY 1999 are:		
5. Ms. Rowena BUNOAN	Information Officer I - DOH/PIHES	Qtr-1 2000
6. Mr. Diosdado ANGELES	Interactive Programmer (MMCE	Qtr-1 2000
	Designate) - DOH/PIHES	

DOH-JICA FP/MCH PROJECT II

INPUTS: PHILIPPINE SIDE

Personnel necessary for implementing the Project, including administrative and clerical staff:

-Approximately 20 staff on a regular basis (DOH and local government); -Other staff join the project on a per activity basis

Sufficient office space exclusively for JICA experts and staff:

JICA offices are located at:

1.

2.

3,

4.

-DOH-Family Planning Service (Manila)

-DOH-Multi-Media Center of Excellence (Manila)

-DOH-Regional Office No.III (Pampanga)

-Tarlac Provincial Health Office

-Bataan Provincial Health Office

Utilities such as electricity, water supply, sewerage system, telephone and furniture

-provided by counterparts in the offices mentioned above

Counterpart budget for implementing the Project

Counterpart budget for the project covers the salaries of counterpart personnel assigned to the project as well as maintenance and operating costs of equipment and offices.

DOH-JICA FP/MCH Project II Video Productions for 1999



1) TV gg: DENTAL HEALTH - TV 99 host, Nanay Rica and a dentist educate co-host, Ria, about the importance of dental care. Four short music videos were integrated in this production to make it not only educational but also entertaining to children.

2) TV gg: RABIES - Young co-host, John P., has just bought a puppy from a nearby pet shop. TV 99 host, Nanay Rica, takes the opportunity to explain to John P. the importance of being PRO-DOG (Pinoy Responsible Owner of DOG). Being a PRO-DOG means taking good care of one's pets and ensuring that they are rabies-free.





3) ADOLESCENT VIDEO: TEENAGE PREGNANCY, entitled, "Ngayong Gabi" (Tonight) - This is the story of Ella, a teenage girl who just entered college. Through her interactions with friends, teachers and family, Ella learns valuable lessons about love and life, which help her decide on where she stands on the issue of sex and teenage pregnancy.

Upcoming Videos : to be produced early next year

Under Five Clinic Program Video
 Adolescent Video

IEC Video Production

L TV 99 Videos:

No.	TITLE	JFY Produced	MESSAGE/CONTENT	R. TIME
1.	TV99: Cholera	1995	Prevention & treatment of cholera & other diarrheal diseases	12 mins
2	TV99: Pneumonia	1996	Prevention & treatment of pneumonia & other acute respiratory illnesses	22 mins
3.	TV 99: Nutrition	1996	Promotion of good and healthy eating habits	15 mins
4.	TV 99: Basic Hygiene	1996	Promotion of basic hygiene and cleanliness habits	17 mins
5.	TV 99: Safe Pregnancy	1996	Promotion of safe motherhood practices	15 mins
6.	TV 99: Dengue	1997	Prevention & treatment of dengue	14 mins, 57 secs
7.	TV 99: Dental Health	1998	Promotion of proper dental care	15 mins, 14 secs
8.	TV 99: Rabies	1999	Prevention & treatment of rabies	13 mins
9.	TV 99: Tuberculosis/ Primary Complex	Proposed topic for 2000	Prevention & treatment of TB/Primary Complex	
10.	TV 99: Common Skin Diseases	Proposed topic for 2000	Prevention & treatment of Common Skin Diseases	

II. Adolescent Videos:

No.	TITLE	JFY PRODUCED	MESSAGE/CONTENT	R. TIME
1.	Adolescent Video: "Late Bloom"	1997	Educational drama on Menarche	30 mins
2.	Adolescent Video: "Slow Motion"	1998	Educational drama on Sexual Identity	42 mins
3.	Adolescent Video: "Ngayong Gabi"(Tonight)	1999	Educational drama on Teenage Pregnancy	45 mins
4.	Adolescent Video 4	Proposed for 1999	Educational drama on Drug Abuse	
5.	Adolescent Video 5	Proposed for 2000	Educational drama on STD	

No.	TITLE	JFY PRODUCED	MESSAGE/CONTENT	R. TIMI
1.	Tarlac FP/MCH Project: A New Initiative	1993	General information about Tarlac and the project	15 mins
2.	"Isang Bakuna, Isang Buhay" (An Immunization to save a life)	1993	Importance of Immunization	9 mins, 3 secs
3.	"Bawa't Pintig, Buhay " (With each heartbeatlife)	1993	The role of the midwife in health service delivery	23 mins
4.	"Kalinga sa Magiging Ina "(Care for Expectant Mothers)	1994	Promotion of early & regular prenatal consultation	9 mins
5.	"Health Worker: Bayani ng Bayan" (Health Worker: Heroes of our Nation)	1995	Inspirational video for FP Service & Information Providers (SIPs)	18 mins
6.	Binhi goes to Tarlac	1995	Documentary on the implementation of the Community Drug Insurance Program (CDIP) in Tarlac	17 mins
7.	PFPP: For the Family	1995	Overview of the Philippine Family Planning Program (PFPP)	11 mins, 30 secs
8.	Ilaw ng Tahanan	1995	Documentary on the community health activities in Tarlac	11 mins, 20 secs
9.	MCH Center video	1997	Documentary on MCH Center of Tarlac	11 mins, 40 secs
10.	Puppet Show video	1997	Documentary on Puppet Show of Tarlac	10 mins, 47 secs
11.	Reaching Out	1998	Documentary on DOH-JICA FP/MCH Project II	12 mins
12.	Tosang	1998	Community empowerment on Tosang Pipe Making in Bulacan	17 mins, 23 secs
13.	Under Five Clinic Program Video	To be produced on 1999	Documentary on Under Five Clinic Program	

III. Health Information / Documentary Videos:

DOH-JICA FP/MCH PROJECT II

PRINT MATERIALS PRODUCED 1997-1999

	Material	Description	Quantity
1.	Calendar 1998	The focus of this year's calendar was on the Filipino family values, depicted in six paintings done by high school students	500 cps.
2	MCH Record Book	Booklet which integrated various forms used for monitoring the mother's pregnancy up to the child's development	Initial: 2,000 cps Reprint: 12,000 cps
3.	HealthLine Magazine (1998 Issue)	Magazine produced in collaboration with the Philippine Public Health Association which disseminates information on public health issues	1,000 cps.
4.	FP/MCH Mini-Library (Re-print	This is a set of handy, attractive, durable and informative reference materials on FP/MCH for health workers.	300 sets
5.	Calendar 1999	The theme for this calendar was "Women & Children of Central Luzon." The calendar captured typical scenes reflecting women & children working together in industries that the six provinces of Central Luzon are known for.	1,500 cps.
6.	Health Info Kit in Pilipino	This kit contains information used for orienting local officials on health programs and concerns.	2,500 cps.
7.	HealthLine Magazine (1999 Issue)	For this year, this magazine was produced in collaboration with Nutrilinc, a health NGO based in Pampanga. It disseminates information on nutrition and related health concerns.	1,000 cps
8.	HealthBeat Magazine	This is a bi-monthly magazine of the Department of Health. The Project co- produced 4 regular issues & 1 special issue of the magazine in cooperation with DOH/PIHES.	4 Regular issues - 5,000 cps each; 1 special issue - 3,000 cps/
9.	MCH Manual for BHWs	This manual contains information which can help the BHW guide mothers toward healthy MCH practices.	1,000 cps.

(1) 1998年度プロジェクト年間報告



DOH-JICA FP/MCH PROJECT II ANNUAL REPORT FY '98

Table of Contents

I.	OVERVIEW OF YEAR 2 OF THE PROJECT 1
II.	 PROJECT ACTIVITIES AND ACCOMPLISHMENTS FOR YEAR 2 2.0 PROJECT REVIEW & RELATED ACTIVITIES
	 2.1. CONDUCT OF MONITORING AND EVALUATION ACTIVITIES
	 2.2 IMPLEMENTATION OF TRAINING / RE-TRAINING PROGRAM FOR HEALTH WORKERS
	COUNTERPART TRAINING IN JAPAN
	 OTHER TRAINING PROGRAMS IN JAPAN
	 TECHNICAL EXCHANGE PROGRAM

_

2.3. UPGRADE OF MEDICAL AND IEC EQUIPMENT 14
 2.4.ENHANCEMENT OF COMMUNITY PARTICIPATION
 2.5. DEVELOPMENT AND PRODUCTION OF IEC MATERIALS
 VIDEO MATERIALS
 2.6. PROVISION OF TECHNICAL ASSISTANCE
 2.7. OTHER ADVOCACY ACTIVITIES
2.8 PROJECT VISITORS
 ANNEXES
 List of Available Video Materials Produced by the Project

DOH-JICA FP/MCH Project II 1998 Annual Report

I. Overview of Year 2

The Phase II Project was started in April 1997, with the objective of achieving regionwide improvements in reproductive health status in Central Luzon through dissemination of the gains from the Phase I Tarlac experience. Year 1 of the Project was characterized by the gradual initiation of major activities in expansion sites outside Tarlac and the search for new and more appropriate strategies suitable to the conditions of Phase II.

This year, 1998, marks the second year of Phase II implementation, ushering in the Intensification Period for project activities. The major activities which were started last year were pursued and strengthened in 1998. Fortunately, the Project was able to avail of supplementary funds to support the intensification of activities planned for the year. These activities include:

- 1. Conduct of survey, monitoring and evaluation studies
- 2. Implementation of a training/re-training program for health workers
- 3. Upgrading of facilities and equipment
- Conduct of health-related community partnership activities, such as, the Community Drug Insurance Program and health advocacy activities
- Development, production and dissemination of print and audio visual materials for information, education and communication (IEC) purposes
- 6. Provision of technical assistance to Local

Government Units (LGUs) and Non-Governmental Organizations (NGOs) with respect to various Japanese Official Development Assistance (ODA) Schemes

Fiscal Year 1998 was also witness to the Project's shift to new directions, such as the:

- 1. Expansion and strengthening of community partnerships for health and development in Region III through NGOs and People's Organizations (POs)
- Promotion of an integrated package-type cooperation in Region III, with the FP/ MCH technical cooperation project spearheading the organization and integration of the various Japanese ODA schemes, such as:
- a. Japanese Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) Program - in the implementation of its Front-line Initiatives (FLI)
- General Grant Aid Program for the "Upgrade of Facilities and Equipment in Selected Field Health Units in Region III"
- c. Grant Assistance for Grassroots Projects
- d. NGO Local Development Program (LDP).
- 3. Promotion of understanding and participation among the Japanese and Filipino people through the participation LGUs and NGOs in programs such as:
- a. The Overseas Technical Training Program of Hiroshima Prefecture
- b. Technical Exchange Visit of the Kamogawa (a municipality in Okayama Prefecture) International Organization.
- 4. Pursuit of collaborative activities with other international agencies.

I

II. Project Activities and Accomplishments for Year 2

2.0 Project Review and Related Activities

• Visit of the JICA Advisory Mission A three-member Advisory Team for the Family Planning and Maternal and Child Health Project, Phase II was dispatched to the Philippines on August 25 to September 4, 1998. The members of the Mission were:

- 1. Dr. Toshitaka NAKAHARA (Team Leader) Professor, Department of Public Health Graduate School of Medicine, Kyoto University
- 2. Dr. Shigeru SUGANAMI (Community Health Expert) Chairman, Asuka-Kai Medical Inc.
- 3. Mr. Kenichi ITO (Cooperation Planning Expert) Staff, First Medical Cooperation Division Medical Cooperation Department, JICA



Participants in the Project's Joint Coordinating Committee Meeting

During their visit, the members of the JICA Project Mission monitored and assessed the



Dr. Toshitaka NAKAHARA, Team Leader of the JICA Advisory Mission, and USE Antonio LOPEZ of the DOH, signing the Minutes of Discussion

progress of the FP/MCH Project. The Mission members conducted field visits of rural health units (RHUs) and barangay health stations (BHSs) in Bataan and Tarlac. They also visited the training site of the Under-Five Clinic Program in Baguio City, the Children's Medical Center's outreach project site in San Ildefonso, Bulacan and the Plaridel Community Hospital managed by the University of Regina Carmeli also in Bulacan.

> The Advisory Team also met with officials of the Department of Health (DOH), the Regional Health Office No. III and the Provincial Health Officers of the six provinces of Region III. The Team exchanged views and had a series of discussions with the Philippine authorities concerned about the on-going activities of the Project. In the discussions with local health officers, the operation plan for the entire duration of the Project was likewise reviewed.

Joint Project Coordinating Committee Meeting

August 28, 1998, a Joint Project Coordinat-

ing Committee Meeting was held at the Holiday Inn, Clark Field, Angeles City. The meeting was a gathering of all the Provincial Health Officers of the six provinces of Central Luzon, officials of the Regional Health Office and selected members of selected non-governmental organizations (NGOs) such as: the Samahang Manggagawa ng Binhing Kalusugan (SMBK), University of Regina Carmeli, Children's Medical Center Philippines, Samahang Kababaihan ng Gatbuca sa Kalusugan (SKGK), Samahang Lakas ng Kabataan (SALAKAB), Nutrilinc, and the Philippine Rural Reconstruction Movement (PRRM). Also present were the JICA Project experts and staff as well as members of the JICA Project Mission, whose visit coincided with the meeting.

During the Joint Project Coordinating Committee Meeting, the current status and future directions of Project implementation were discussed. Moreover, the participants shared valuable insights and gave inputs for ensuring the successful implementation of the Project.

Inauguration of Project Offices in Bataan and Bulacan

As part of the Project's area-based management strategy, additional Project offices were set up in the provinces of Bataan and Bulacan.

The JICA Project Office in Bataan was inaugurated last July 31, 1998. Located at the Bataan Provincial Health Office in Tenejero, Balanga, Bataan, this project office oversees the

implementation of the programs and activities in Bataan and Zambales. Ms. Shoko SATO, newly assigned to the Project on July 1, 1998, is the JICA expert in charge of the office.

The JICA Project Office in Bulacan, on the

other hand, is located in Malolos, within the Catmon campus of the University of Regina Carmeli, one of the Project's NGO partners. Under the able administration of JICA expert, Dr. Suketaka IWANAGA, who was transferred from the San Fernando Office, the Bulacan office oversees all NGO collaboration activities of the Project. It was inaugurated on February 8, 1999.

Aside from these two offices, the Project also maintains bases at other locations for a smooth project implementation and coordination. These include (a) the main Project implementation office - located within the DOH Regional Health Office III compound in San Fernando



Pampanga; (b) the planning, administrative and IEC offices at the DOH compound in Manila; and (c) the Tarlac field office located at the Tarlac Provincial Hospital in San Vicente, Tarlac City.

1998 Annual Report

2.1 Conduct of Monitoring and Evaluation Activities

• Profiling of Central Luzon Provinces For Phase II, which now covers the six provinces of Region III, the Project recognized the need to establish vital information on the maternal and child health situation of each of the provinces through the gathering and compilation of pertinent health information available at the field health units.

With this in mind, the Project collected, organized and compiled all data available at the Regional Health Office (RHO) and Provincial Health Offices (PHOs) to come up with a *Provincial Health Profile* for each of the six provinces of Central Luzon. This was accomplished through close coordination and planning with RHO and PHO staff and with the Provincial Health. A standard survey questionnaire was used in gathering the health data.

The Project also consulted with Dr. Toru SUZUKI, JICA short-term expert on statistics, for further improving the survey.

Health Data Board

A health data board is a community-based information system which provides accurate and updated information necessary for planning and implementation of health programs in the community.

The Provincial Health Office of Tarlac, in cooperation with the Project, initiated the establishment of health data boards in all thirteen (13) barangays of San Jose, Tarlac.

Active Community Volunteer Health Workers (CVHWs) in San Jose are responsible for collecting the basic information for data board presentation as well as for maintaining the



board. Once the boards become functional, regular monitoring and evaluation shall be done jointly by representatives from the San Jose RHU, the Tarlac PHO and the JICA Project.

• Barangay Health Workers Study In most communities, the barangay health stations (BHSs) are the first sources of medical care. The effectiveness of these BHSs rests greatly on the capacities and capabilities of their personnel - the midwife who runs the BHS, supported by the barangay health workers (BHWs), who are now called, community volunteer health workers. These volunteer workers play a vital role in the delivery of health information and services in the community.

The BHWs have been recipients of a number of training programs of the Department of Health to further improve themselves and make them effective in their roles. The large number of volunteer workers requires large amount of resources for their continuing education. However, due to the limited resources, there are health programs with no regular training.

When the FP/MCH Project expanded its coverage to the whole of Central Luzon, a capability building program specifically for barangay health workers was targeted as one of its priorities.

As a first step towards the development of a good and responsive capability building program, the Project implemented a *Barangay Health Workers Study.* Short-term experts, Dr. Shinju TAKEMURA and Dr. Tomofumi SONE, provided the design of the questionnaires and the analytical framework for the study. Through a survey conducted in the three provinces of Central Luzon - Pampanga, Tarlac and Zambales - nine hundred (300 from each province) BHW respondents were interviewed using a structured questionnaire. Information gathered revealed,



among others, the respondents' inadequate knowledge on FP/MCH, their strong positive attitude towards their job, and their training history.

This survey will contribute to setting the *Precede-Proceed Model* for community health promotion, which is essential for a rational family planning and evaluation of community health intervention activities.

• Gender Study on Family Planning and Maternal and Child Health

In order to assess the gender gap between men and women in terms of their awareness, attitudes, needs and practices in the field of reproductive health, particularly on family planning and maternal and child health, the

Project conducted a Gender Study. This was done in cooperation with the Wesleyan University in Nueva Ecija. This study was designed to (1) establish baseline data on reproductive health, (2) identify policy and program implications, and (3) recommend appropriate interventions at the policy making, program planning and implementation levels.

The Gender Study on Family Planning and Maternal and Child Health implemented a stratified purposive sampling using as reference the distribution of population in the selected towns of Bataan and Nueva Ecija, the sites of the survey. Respondents included 300 married men and 300 married women in the reproductive ages, 15-44 years.

The primary data collection method used was interviewing through the use of a structured questionnaire. The questionnaire was divided into seven parts, namely:

1. Respondents profile (sex, age, education, occupation, religion, age at marriage, number of co-residents in the same house-hold, number of children)

5

- 85 -

- 2. Experience of pre-marital sex
- 3. Family Planning (knowledge, attitudes, practices)
- 4. Pregnancy and delivery (age at first pregnancy, frequency, effect on career, husband's attitudes and behavior during the wife's pregnancy, extent of sharing of domestic duties between husband and wife during pregnancy, husband's role during and post delivery)
- 5. Child rearing and child health (feeding practices, responsibilities of husband and wife)
- 6. Extent and type of wife's responsibilities in the area of domestic/family life, paid work and community development



7. Allied areas (domestic violence, sexually transmitted diseases)

To complement the data from interviews, a secondary data source was accessed through the provincial health offices and other offices/bodies whose activities were directly or indirectly related to the concerns of the study.

• IEC Media Survey

The expansion of the Project from one province (Tarlac) to all the six provinces of Central Luzon has challenged the IEC component to come up with strategies that would ensure capturing a wider audience without necessarily multiplying implementation costs by six.

The project conducted three surveys on the audio-visual mass media of Region III to serve as data base for planning future project activities and eventually expanding the reach of IEC advocacy materials. These were:

1. Survey of Schools in Central Luzon with Selected Mass Media Appliances -

A list of about 200 public and private schools in Central Luzon with TV and VHS was compiled through the help of the Provincial Divisions of the Department of Education, Culture and Sports (DECS). The list provided the Project an idea on the volume and distribution of educational institutions that could be utilized as expanded channels for disseminating Project videos.

2. Survey of Radio Stations in Central Luzon -A profile of the radio stations in Region III

was gathered by a survey team. Based on the results, there are 18 local radio stations in the region. Except for those that have purely music programs, there are some stations that could be tapped to air health information. The results of the survey in radio stations could help the

Project assess whether the production of Radio 99 is a viable activity or not.

3. Cable Stations in Central Luzon -

A corporate profile on the 18 major cable stations in Region III was also gathered. All 18 cable stations have locally-produced "community channels" that would serve as a potential medium to air TV 99 videos should the Project decide to explore this avenue.

2.2 Implementation of a Training/Re-training Program for Health Workers

LOCAL TRAINING

To strengthen the capabilities of health workers and service providers, appropriate local trainings were conducted. The program focused on the development of adequate knowledge, excellent skills and proper attitude among participants from the provinces of Central Luzon to enable them to utilize their acquired abilities with effectiveness and efficiency in their areas of operation.

• Training of Trainors (TOT) on the Operation of the Under-Five Clinic Program

In line with the Project's efforts towards improving child survival through the promotion of child growth monitoring, the *Training of Trainors on the Operation of the Under- Five Clinic (UFC) Program* was begun in Year 1 in Tarlac province. For Year 2, this training was continued for pilot areas in each of the provinces in Region III.

Under this program, key health personnel from selected health facilities in the six provinces of Central Luzon attended 5-day training courses. The training allowed the participants to experience a more comprehensive and holistic approach of providing child health care.

The first training was held on September 28 to October 3, 1998. There were 32 participants from the provinces of Bataan, Nueva Ecija and Bulacan - 5 physicians, 13 nurses, 10 midwives, 3 nutritionists and a health educator.

On November 23 to 28, 1998, thirty-one participants coming from the provinces of Pampanga and Bulacan attended the second training on the operation of the UFC Program -



Anemia detection services at the Under Five Clinic

8 physicians, 1 nurses, 6 midwives, 3 nutritionists and a health educator.

The last training for Year 2 was held on February 14 to 20, 1999, with twenty-five participants - 16 from Zambales, 5 from Bulacan and 4 from Bataan.

The venue for the series of trainings was the Baguio General Hospital and Medical Center in Baguio City, which serves as a model of success in the implementation of a more comprehensive and holistic UFC Program.

Resource persons/facilitators included the pioneer of the program, Dr. Natividad Relucio-Clavano, Dr. Esther Miranda, the head of the program together with the staff and residents of the hospital.

All trainings consisted of two (2) phases: theoretical and practicum. Under the theoretical phase, the training extensively covered the concept, significance, objectives and techniques of the program implementation, monitoring and and other key health personnel from each of the six provinces of Region III participated in the *Echo Training on the Operation of the Under-Five Clinic Program.* These ccho trainings gave the TOT participants an opportunity to impart to their staff and fellow health workers the necessary knowledge and skills to make the UFC Program work in their respective provinces.

The echo trainings were designed to create a pool of health personnel who can implement an

effective and efficient UFC Program in the pilot areas in Pampanga, Tarlac, Nueva Ecija, Bataan, Bulacan and Zambales. The five-day training consisted of lectures, demonstrations, workshops, group dynamics, role play and video presentations. In addition to this, the participants were given the opportunity to practice their UFC skills at the



Health Workers participating in the training programs

Baguio General Hospital and Medical Center. Each participant had the chance to handle at least three (3) cases following the flow line of the UFC, from registration to the provision of basic medicines during the one-day practicum.

At the end of training, the participants prepared and presented their action plans for the implementation of the Under-Five Clinic Program in their areas of responsibilities.

supervision. It also tackled issues on the growth chart, equipment, basic medicines, records and reports. This was done through lectures, discussions, hypothetical cases and workshops.

The highlight of the training was the practicum phase, which consisted of the actual application

of skills and knowledge gained from the theoretical phase. The participants were given the opportunity to handle patients on a one-on-one basis. This hands-on exposure gave them a lot of insights about the intricacies of running the program.

• Echo Training on the Under-Five Clinic Program

Seven batches of doctors, nurses, midwives,

- 88 -

• Refresher Course on Maternal and Child Health Care Program for Rural Health Midwives

Filipino mothers, especially those in rural communities, rely largely on the midwife to take care of most of their health care needs, particularly during pregnancy and delivery. Over the years, rural health midwives encounter an increasing number of complications and problems during pregnancy and home deliveries. For this reason, the midwives' knowledge and skills in giving maternal and child care needs to be continually upgraded. This was achieved through the *Refresher Course on Maternal and Child Health Care Program for Rural Health Midwives.*

The five-day training course was conducted for five batches of rural health midwives from different provinces of Region III. Resource persons included Provincial DOH Representa-

tives, Medical Specialists, Obstetrician-Gynecologist Consultants and Pediatricians.

Seminar
 Workshop
 on Child
 Growth
 Interven tions
 A Seminar



JICA Expert Dr. Toru RIKIMARU demonstrates the use of height-weight measurements to compute body fat content

Workshop on Child Growth Interventions was initiated by the Provincial Health Office of Pampanga, in cooperation with the JICA Project. The seminarworkshop put particular emphasis on nutrition since it has been identified as one of the province's priority programs. The training was held at the Conference Hall of the Pampanga Provincial Hospital in Guagua on November 16,



UFC Training participants conduct growth monitoring exercises

17, 19 and 20, 1998.

Twenty-nine health workers (11 Rural Health Midwives, 4 Public Health Nurses and 14 Barangay Health Workers) from the municipalities of Lubao and Guagua participated in the training.

> The general objective of the four-day seminarworkshop was to strengthen the capabilities of rural health personnel in performing good care-giving behaviors that promote healthy child growth. Such behavior includes care for pregnant and lactating mothers, breastfeeding and complementary feeding practices among young children, hygienic practices,

health seeking behaviors, food preparation and storage.

The presence of Dr. Toru RIKIMARU, a JICA short-term expert on nutrition, served as the highlight of the seminar. Dr. Rikimaru gave a lecture on Pregnancy and the Body Mass Index (BMI). • Capability Building Program for Barangay Health Workers

As vital partners in health development, barangay health workers perform multiple tasks. They act as community organizers, educators and health service providers. In order to perform all these roles and responsibilities effectively, BHWs have to be adequately trained.

A Capability Building Program for Barangay Health Workers was conducted at the Generics Hall of the Bataan Provincial Health Compound in Balanga, Bataan. Sixty participants (30 each from Bataan and Zambales) attended this twopart training course. The first was held on February 22-26, 1999, followed by the second part on March 8-12, 1999.

The training focused on maternal and child care and the prevention and control of noncommunicable diseases. Basic community organizing and a review of the roles and func-

tions of BHWs were also included in the curriculum. Resource persons and facilitators came from the Regional and Provincial Health Offices and from NGOs like the Philippine Rural Reconstruction Movement (PRRM).



Demonstrating the proper use of the Magnel Kit

• Training on the Proper Use of Magnel Kits and Maggie-the-Apron

In support of the health education program being undertaken by rural health personnel, the Project provided selected field health facilities with Magnel Kits and Maggie-the-Apron. The kit and the apron are the latest family planning educational aids produced by Japan Family Planning Association (JFPA), in cooperation with the Japan Organization for International Cooperation in Family Planning, Inc. (JOICFP).

The Magnel Kit contains an iron panel and rubber sheet illustrations, which can be utilized to inform mothers and other clients on contraceptive methods, contraceptive failures, process of ovulation and menstruation, and the development of the fetus. While the Maggie-the-Apron, as the name suggests, contains an apron with a transparent pocket on the tummy and sets of plastic cards which can be inserted in the transparent pocket. The plastic cards contain illustrations of the uterus, ovulation process, fertilization, conception and contraception. These aids are ideal for use in mother's classes and other single group teaching sessions.

> To prepare the health personnel in the rural health units of Bulacan and Nueva Ecija in the proper usage of the kit and apron, two half-day training courses were undertaken. The first training, held at the University of

Regina Carmeli, was conducted on November 19, 1998 for 37 participants from Bulacan Province. The training was conducted by Miss Misao MORI, a JICA short term expert on Primary Health Care. The other training was attended by twenty-nine Public Health Nurses from the province of Nueva Ecija and six Trainors/Instructors from the Wesleyan University in the same province. This was conducted on November 24, 1998 at the Nueva Ecija Provincial Health Office in Cabanatuan City.

Resource persons, which included health personnel from the Provincial Health Offices of Bulacan and Nueva Ecija, gave the participants a brief orientation about the kit and the apron and conducted a demonstration on their proper use.

• Seminar Workshop on Puppet Theater In November 1997, the very first

Seminar Workshop on Basic Puppetry was held in the Province of Tarlac. The five-day seminar was participated in by 25 health workers and health volunteers from Tarlac, Concepcion and Camiling areas. It was conducted to develop and enhance the participants' acquired knowledge and skills on puppetry and use it as a channel for informing, educating and mobilizing the community towards health improvement.

Because of the success of the seminar-workshop in Tarlac, the Project decided to expand this activity in other provinces. Through the efforts of Ms. Ayako NAKAMORI, a JICA-short-term expert on IEC, two new Seminar-Workshops on Puppet Theater were conducted this year with participants from Tarlac, Nueva Ecija, Bataan and Zambales. The first seminar was held on August 24 to 28, 1998; while the second one was on August 31 to September 4, 1998.

Just like the first seminar, the participants were trained by a group of expert trainors/ facilitators on the creative, technical and production aspects of puppet theater. Topics included: Scriptwriting, Puppet Design and Construction, Props and Scenic Design, Puppet Manipulation, Voicing and Stage Construction. At the end of the training, participants produced and performed their own puppet shows as an output of their learnings from the seminars.

• Seminar on Health Policies and the Devolved Health Managers

This seminar was held in order to strengthen the capabilities of the health managers in the different municipalities of Bataan. Forty (40) participants, including all the Municipal Health



Participants in the puppet training design their own characters

Officers, Rural Health Physicians and the provincial technical staff of Bataan attended the one-day training held on December 11, 1998 at the Legenda Hotel in Olongapo City. Among the topics covered were: Health Administration in the Light of Devolution and HIV and Safe Motherhood.

COUNTERPART TRAINING IN JAPAN

• Training on the Production of Audio-Visual Communication Media.

This training was held at the JICA International Center in Okinawa, Japan from January 7 to April 30, 1999. The Philippines was repre-



Fedelino MENDOZA



sented by Ms. Elenita CARREON Elenita Carreon, Information Officer II of the Regional Health Office III.

The training program included courses in basic theories, production skills in multimedia and field trips. The theories course included: Introduction to Audio-Visual Media, Internet and Planning and Evaluation of AV Materials. Basic skills included Word Processing, Graphics, Photography and Sound Recording. Production skills involved Sound Slides, Desktop Publishing, Internet Homepage, Video Production and Desktop Presentation. Field trips to different communication centers allowed the participants to see the latest in multimedia technology.

 Training on Video Program Production Techniques.

This training was held at the Sony Center in Tokyo, Japan

from February 16 to March 30, 1999. This year, the Project sent Mr. Fedelino Mendoza, Information Officer I of the Department of Health's Public Information and Health Education Service (PIHES).



Trainees visiting a Japanese health facility during the FP/MCH Counterpart Training in Japan

The participants were taught all aspects of video production - from setting up equipment, connecting cables, understanding how the camera works, to writing scripts, video and sound editing. At the end of the training, the participants presented their own video productions as training outputs to showcase the skills they learned.





Alice MIRANDA

• Training on FP/ MCH

To enhance the capability of technical staff from the Provincial Health Offices in the field of FP/MCH/Reproductive Health, the Project sent two participants to JICA's *Counterpart Training on FP/MCH*.

The training was held at Hiroshima and Okayama, Japan from February 21 to March 28, 1999. The Philippines was represented by Ms.

Alice Miranda, Health Education and Promotion Officer I from Pampanga and Ms. Ma. Aurora de Guzman, a Public Health Nurse from Nueva Ecija.

During the training, the participants learned about the Japanese public health system, par-

ticularly the services for maternal and child health and the elderly and the recording and reporting system. Field trips to hospitals and other health facilities exposed the trainees to comprehensive health programs that could be adapted in their own situation in Region III.

OTHER TRAINING PROGRAMS IN JAPAN

• Cooperation program for Overseas Technical Trainees of Hiroshima Prefecture This year, the Project was able to nominate

one participant to this training program conducted by the local government of Hiroshima

Prefecture. The participant from the Philippines was Ms. Rowena Alba, a nurse-midwife from the University of Regina Carmeli in Bulacan, who stayed in Japan for nine months to undergo training in public health.

 JICA Group Training Course on Capacity Building for Local NGOs and Non-Profit Organization (NPOs) for Health Development

The Project nominated the University of Regina Carmeli for this series of annual trainings for various staff of NGOs/NPOs. This year, the training was designed for NGO program planners and the University of Regina Carmeli was represented by Ms. Dolores Tizon, Dean of the University's Allied Medical Courses, and coordinator of several collaborative projects with JICA. This training program was conducted by the Association of Medical Doctors of Asia (AMDA).

TECHNICAL EXCHANGE PROGRAM WITH THE UNITED NATIONS POPULA-TION FUND (UNFPA)

The Technical Exchange Program with

UNFPA undertaken this year was part of the Project's capability building program for the health personnel in Central Luzon.

Under this program, the Project sent three batches of outstanding health officers and workers from Region III to the UNFPA project sites in Region VI (Western Visayas) and Davao where there are ongoing interesting healthrelated activities.

The selection of participants was done by each Provincial Health Office. The first technical exchange was held on February 16 to



Courtesy call to Hon, Florencio MIRAFLORES, Governor of Aklan

19,1999; followed by a second batch on March 9 to 12, 1999; and the third on March 17 to 19, 1999. The three batches of participants were:

Batch 1 - Thirty (30) Municipal Health Officers/ Rural Health Physicians Batch 2 - Thirty (30) Rural Health Midwives/

Public Health Nurses

Batch 3 - Ten (10) Health Executives, including the Regional Health Office Director, Regional Hospital Director and all the Provincial Health Officers

Each batch was accompanied by two JICA Project staff, namely: Dr. Taka Iwanaga and Tyrone Rabago for Batch 1; for Batch 2, Ms. Yoko Komura and Marites de Castro; and Dr. Kyo Hanada and Ms. Shoko Sato for Batch 3.

In general, the participants were impressed with the UNFPA project sites visited. They were inspired by the commitment and dedication of Region VI health workers. Furthermore, they were also impressed with the activities they have observed in the host areas, especially the Family Planning Male Motivators activity which they are willing to adopt in their own provinces.

Among the most important observations made by the Technical Exchange_participants were:

- The local chief executives (LCEs) in Region VI gave their full support to the healthrelated activities of the visited areas.
- 2. The health workers in Region VI were totally committed to offering their services despite the difficult geographic location of their coverage areas and other barriers affecting the implementation of health activities.

- 3. There were a number of impressive IEC materials posted strategically in the health facilities visited.
- 4. There was total involvement and active participation of the community, especially the men and adolescents in the conduct of FP/RH activities.
- 5. Several LGU-initiated projects supported by UNFPA, such as: Walking Blood Bank, Community-Based Monitoring System, adolescent peer counseling, Male Motivators in FP activities, Botika sa Barangay and income-generating livelihood projects such as tocino, chorizo and longaniza-making, continue to be sustained.

As for recommendations, the participants gave the following:

- 1. Involve the population workers in Region III in the conduct of adolescent peer counseling.
- 2. Solicit the commitment and support of local chief executives in Region III to ensure smooth implementation of activities.
- 3. Send the local chief executives of Region III to join future technical ex-

change programs. 2.3 Upgrade of Medical and IEC Equipment

• Medical Equipment

To achieve lasting improvements in the health status of mothers and children, the Project forged a long standing and meaningful partnership with the medical. public health and education components of the health system. The Project believes that an unlimited access to good quality and advanced



Dr. Gliceria SUCGANG, Rural Health Physician of Altavas, Aklan (standing) briefs the midwives about the health situation of the Municipality

equipment and facilities will enable health workers to render their services and functions more effectively.

The equipment provided for this year were educational aides such as the Magnel Kit and Maggie-the-Apron for rural health personnel in the rural health units and Home Delivery Kits for midwives.

IEC Equipment

The Public Information and Health Education Services (PIHES) handles the production of all IEC materials and activities of the health department. In order to strengthen this division in the production of quality health IEC materials for nationwide utilization, the Project has donated to the Department of Health some important equipment for audio-visual productions and printing. The Project also provided some computers, projection system and basic presentation equipment to the Provincial and Regional Health Offices that will increase the quality of training facilities and enhance their advocacy function. Tarlac Province, it was included among the activities pursued in the expansion phase of the JICA Project in Region III.

In July 1997, the expansion of the program began in the province of Zambales. Other outlets in Pampanga and Bulacan have also participated in this program.

In order to strengthen the Botika Binhi program in Central Luzon, the Project continued to conduct quarterly workshops this year for active Botika Binhi, in coordination with SMBK. During these workshops, participants exchanged ideas on how to improve their accounting system, how to develop administrative knowledge and skills, and how to further promote community participation. Monitoring visits were also conducted regularly.

Training on Tosang Manufacturing

"Tosang" is the local term for concrete pipes used in making toilet tanks. In rural communities where private toilets are not common, constructing public toilets for the community is essential for public health, particularly in preventing diarrheal diseases in both children and adults.

2.4 Enhancement of Community Participation

• Community Drug Insurance Program

The Botika Binhi or Community Drug Insurance Program (CDIP) continues to provide essential drugs at low prices in communities where no commercial drug outlets exist. This is a community empowering initiative because the whole community is involved not just as drugstore clients but as program partners as well. Because of the success of CDIP in



Participants watch as concrete is poured to make "tosang"

To learn how to make concrete pipes for toilet construction, a livelihood and skills training on *Tosang Manufacturing* was conducted for the people of Barangay Gatbuca in Calumpit, Bulacan on January 27, 1999.

The training addressed the need for a more accessible and affordable means of constructing toilets for the community members and the surrounding villages. It also provided an opportunity for the fathers and the men in the community to participate in health activities.

The trainees were composed of members of two NGOs in Bulacan, namely the Samahang Kababaihan ng Gatbuca sa Kalusugan (SKGK) and the Samahang Lakas ng Kabataan (SALAKAB). The resource person was from Baras-Baras, a community in Tarlac.

As an offshoot of this activity, the Project decided to produce a video documentary that would share to other people the experiences of Gatbuca on the process and dynamics of community empowerment. This documentary will feature tosang manufacturing as one of the community's major activities.

• Training Program to Upgrade the Sewing Skills and Management Capabilities of Tarlac Barangay Health Workers

The Association of Barangay Health Workers in Tarlac was the lucky recipient of sewing machines donated by the Association of Medical Doctors of Asia (AMDA) and funded by the Japanese Ministry of Foreign Affairs. The sewing machines provided its members with an opportunity to start an income-generating project for the association. However, there was a felt need to first improve the sewing and marketing skills of the members in order to make the sewing project viable as an income-generating activity. Hence, the project conducted a training



BHWs upgrading their sewing skills

program in March 1999 specifically to address this problem.

The training was composed of three major phases:

- Skills and Training Needs Analysis which involved consultation with the members and officers regarding problems encountered, skills level of members, available resources, organizational appraisal and future plans.
- Marketing and Planning Workshop which entailed training the members on how to sell and promote the items produced, price them competitively, explore new markets and plan strategies.
- Master Cutting and Quality Sewing Workshop - This involved training on design or pattern-making and actual sewing of products, such as: ready-to-wear (RTW) apparél, bags, hats, and stuffed toys.

Eighteen (18) barangay health workers from barangays — Baras-Baras, Camiling, Carangyan, San Luis and San Pablo were selected as trainees in the third phase of the training course. Since participants have different levels of skills, they were taught individually to ensure full transfer of skills and knowledge. To culminate the workshop, the participants exhibited their finished

1998 Annual Report

products such as pants, skirts, blouses, net bags and stuffed toys by way of a mini-fashion show.

• Health Advocacy Activities

Copies of the TV

99 video series were also distributed to all

Provincial Health

RHUs and NGOs in

Show (Puppet Show).

Since its inception in

Tarlac in 1997, the

Teatro 99: Papet

Show, a stage play

presentation using

characters, has been

innovative medium

different puppet

an effective and

Offices, selected

Teatro 99: Papet

Region III.

TV99. The project continues to conduct regular showings of health education videos produced by the Project, called TV99, in various barangay public areas in Tarlac.

For Fiscal Year 1998, this activity has been conducted in 42 barangays throughout Tarlac and in one barangay in Bulacan.

2.5 Development and Production of IEC Materials

PRINT MATERIALS

• 1999 Calendar

Since 1993, the Project has developed and designed its own annual calendars, with each year reflecting a different theme. These calendars are distributed throughout the project area, the Department of Health and to NGOs and international donor agencies in the field of health.



TV 99 Video Series

Calendar, the Project selected the theme " Women and Children of Central Luzon" to highlight its concern for these two special sectors in its project sites. The calendar has captured some typical scenes

For its 1999

for health education and promotion.

This year, the Project trained health workers in other provinces outside Tarlac on puppetry skills to expand the showing of Teatro 99 performances. Today, shows using puppetry to educate audience on health has reached the communities in Tarlac, Bataan, Nueva Ecija and Zambales. Development of new scripts and materials on health related topics other than the three existing ones, namely, Dengue, Rabies and Nutrition, are currently being done by the puppet groups reflecting women and children working together in industries that the six province of Central Luzon are known for.

• Reprint of the MCH Record Book

The MCH Record Book for Mothers records all information for monitoring the mother's pregnancy and the early growth and development of her child. The booklet integrated all the record forms being used in health clinics into a simpler and more affordable material.

For this year, the existing MCH Record



Book for Mothers was revised, and reprinted. Copies of the revised Record Book were distributed to the pilot areas for the Project's Under-Five Clinic Program.

• Health Info Kit in Pilipino

The Regional Health Office No. 3 conducts orientations on health programs and concerns to local chief executives and members of the local health boards to solicit LGU support for health.

The Regional Office developed a *Health Info Kit*, written in English, that is distributed during the orientation sessions as support IEC material.

However, there was a clamor for a Pilipino version of the Health Info Kit for distribution among officials at the barangay level. The Project responded to this by coming up with a simplified version of the Info Kit, written in Pilipino. The new version contains some minor changes such as: simplified text, inclusion of updated materials and reduced number of pages to focus attention on health problems commonly encountered at the grassroots level.

• HealthLine

The *HealthLine magazine* is a collaborative effort between the DOH-JICA FP/MCH Project and the Nutrition and Livelihood Resource Center, Inc. (NUTRILINC), a health NGO based in Pampanga. It serves as a medium for disseminating information related to public health issues and nutrition. For this particular issue, the articles focused was on nutrition.

• HealthBeat

HealthBeat is a bi-monthly magazine which is the official publication of the Department of Health. For Fiscal year 1998, the DOH-JICA FP/MCH Project provided financial and technical assistance for the printing of four regular issues and one special supplement of HealthBeat in collaboration with the Public Information and Health Education Service (PIHES).

VIDEO MATERIALS

 Adolescent Video on Sexual Identity The Project produced its second adolescent



Shooting of the Adoloscent video on Sexual Identity

1998 Annual Report



in 1998 focusing on *Sexual Identity.* The video aims to educate Filipino teenagers on adolescent health matters and to encourage them to discuss relevant issues with their parents, guardians or teachers.

The video tackles the adolescent's search for identity and independence and the need to understand one's emerging sexuality.

Reaching Out Video

Reaching Out is a video profile of the Phase II Project. It gives viewers an overview of the Project's thrusts and strategies, its major activities and the key agencies collaborating to make the Project achieve its objectives. This video is a handy and concise briefing material on the Project.

• TV 99: Dental Care

Two of the most common diseases in the Philippines are dental caries (tooth decay) and gum disease. Statistics show that 98% of Filipinos suffer from dental caries and 50% suffer from gum disease. These dental diseases outranked the combined prevalence rates of the five leading causes of the illness in the country. This is due to the lack of information on the important role of oral health in the improvement of the quality of life.

In order to provide proper education on oral hygiene, the Project produced an informational video on dental care. Its objectives are: to inform viewers on the facts about dental care; heighten their awareness on how oral gaps in the daily diet affect oral health and development, particularly that of infants and young children; and for parents to monitor their children's diets; and to present tips on how to prevent tooth decay and other oral diseases.

To make the video more entertaining and engaging, computer graphics and animation were utilized.

2.6.Provision of Technical Assistance

• Dispatch of Japanese Short-Term Experts There were six (6) short-term experts dispatched to the Phase II Project during the Fiscal Year 1998-. These experts assisted their local counterparts and the Project team in designing appropriate strategies and programs to help improve health service delivery in the project area.



The Project's short-term experts were:

- 1. Dr. Shinji TAKEMURA Expertise: Primary Health Care Duration : July 16 - August 7, 1998
- 2. Dr. Tomofumi SONE Expertise: FP/MCH Duration : July 22 - August 12, 1998
- 3. Ms. Ayako NAKAMORI Expertise: IEC Duration : August 3 - 31, 1998



Ms. Misao MORI, Primary Health Care Expert

- 4. Dr. Toru RIKIMARU Expertise: MCH/ Nutrition Duration : October 1 -
- November 30, 1998
- 5. Ms. Misao MORI **Expertise:** Primary Health Care Duration : November 11 - 24, 1998
- 6. Mr. Toru SUZUKI **Expertise:** Statistics Duration : January 18 - 30, 1999

- Other Japanese Official Development • Assistance (ODA) Schemes Project experts and staff continue to provide assistance to NGOs, local governments and institutions, particularly those in Region III, in understanding and accessing various Japanese ODA schemes. These schemes include:
 - 1. Grant Assistance for Grassroots Projects (GAGP)

The Grant Assistance for Grassroots Projects program provides financial assistance to NGOs, hospitals, primary schools, research institutes

and other non-profit associations to help implement their development projects at the grassroots level. This fund can be utilized for the purchase of equipment and building facilities necessary for the execution of the project. Particular attention is given to projects in the areas of primary health care, primary education, poverty relief, public welfare, environment as well as projects that involve women in development activities.

This year, the Project assisted three applicants to successfully avail of this grant. These are:

a. Samahan ng Kababaihan ng Gatbuca sa Kaunlaran (SKGK)



Dr. Kyo HANADA with members of the JICA Mission for the NGO Local Development Program
b. Aeta Development Association

c. Municipality of Sabtang, Batanes Province.

2. NGO Local Development Program (LDP)

This program aims to improve livelihood and welfare at the grassroots level through the implementation by NGOs of model projects that directly benefit the people.

The NGO Local Development Program is a new program that started in the Philippines this fiscal year, with the allocation of extra budget to Asian countries as a response to the Asian economic crisis.

This program targets the following areas:

- 1. Community development
- 2. Elderly, disabled and child welfare support
- 3. Health and hygiene improvement
- 4. Women's self-reliance
- 5. Improvement of environmental health
- 6. Capability building
- 7. Promotion of local industry

This year, three non-profit organizations working with the Project were able to avail of this fund, namely:

- a. University of Regina Carmeli which runs the Plaridel Community Hospital
- b. Children's Medical Center, Philippines (CMCP) - which manages the Pinaod Community Comprehensive Health Clinic, and the
- c. Philippine NGO Council.
- 3. Japanese Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)

The Project is in close coordination with the Japanese Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) senior officers who are currently implementing its Front-Line Initiatives (FLI) Program in Region III. This program is designed to supplement on-going efforts in the fields of health, population, social development and agriculture that contribute to community development.

This program aims to promote community development through a combination of the provision of grants for medical equipment, medicines and commodities and the dispatch of young Japanese volunteers, such as nurses, public health workers, nutritionists and midwives, as well as community development workers.

At present, the FLI program is managed by *Mr. Tom YAMADA*, JOCV Senior Officer. There are four JOCVs assigned in Region III who live and work with local residents at the grassroots level. They are:

 Ms. Seiko TAKAMURA - Nutritionist in Pampanga
 Ms. Ritsuko INOUE - Nurse/Midwife in Bulacan
 Ms. Kyoko TAKASHIMA - Public Health Nurse in Zambales
 Ms. Miyuki NISHIMURA - Nurse/Midwife in Bataan

4. GRANT AID PROGRAM FOR REGION III The Project continues to coordinate with the



Members of the Grant Aid Mission with USEC Susan Pineda-MERCADO of the DOH

Department of Health, local governments and the JICA Philippine Office in order to provide a smooth exchange of information to clarify the background and objectives of the Program on the "Upgrade of Facilities and Equipment in Selected Field Health Units in Region III." Last July and October, 1998, the Project also assisted the Basic Design Survey Team for the Grant Aid Program, particularly in facilitating the submission of essential information and data requirements. The Center for Mother and Child, established in Tarlac under the Phase 1 Project, serves as a model for the MCH centers being proposed by other provinces under this scheme. Surveys of the proposed sites are done with the assistance of JOCVs assigned in the area.

2.7 Other Advocacy Activities

• Women's Health and Development Forum Women, having been traditionally a marginalized group, comprise nearly half of the country's population. Because they are now emerging as a force for development, there is a growing national focus on women's issues and gender sensitivity, a trend reflected in the priorities set by the DOH and other agencies on women's health.



Usec Susan Pineda MERCADO delivers a speech at the Women's Health Regional Forum

In order to create greater awareness and appreciation of women's health and gender issues among various agencies, particularly among the local government units, the Project has conducted a series of consultation-workshops in the six provinces of the region and a regional forum on Women's Health and Development.

1. Provincial Consultations. Through a Task Force created by the Regional Health Office Director, six provincial consultation-workshops were conducted by the Project to identify the current women's health situation in the provinces, the programs addressing women's concerns that are being implemented, and the problems

and gaps. Participants included representatives from the various provincial offices, including the Office of the Governor and local NGOs.

2. Technical Consultation/Workshop. A Technical group composed of the technical staff of the regional heads of government agencies in Central Luzon and representatives from NGOs and local government units gathered last March 9, 1999 for a one-day Technical Consultation/Workshop to review,



Participants in the Women's Health Regional Forum

22

process and synthesize the outputs during the Provincial Consultations. The technical group also organized an ad-hoc body that will ensure coordination and provide technical assistance in the organization of provincial council/task forces on Women's Health and Development.

3. Regional Forum. On March 23, 1999, a Women's Health and Development Forum was held at the Holiday Inn, Clark Field, Angeles City. This one-day forum gathered selected government and non-government agencies at the provincial and regional levels to inform them about women's health situation and the programs and the directions towards improving the health of women. Participants included Local Chief Executives, administrators, heads of regional government agencies, members of the Provincial Health Boards, NGOs and JICA experts and staff. Three major speakers were invited, namely, DOH Undersecretary, Dr. Susan Pineda-Mercado, who talked about women's health and development; Dr. Mayumi Juris Luna, the Deputy Executive Director of the National Commission on the Role of Filipino Women, who discussed women and development issues, such as gender equality; and Mayor Estelita M. Aquino of Moncada, Tarlac, who addressed the role of local government units on women's health and development. During the forum, provincial situationers and the outputs of the six provincial consultation-workshops were presented.

NGO Forum

The one-day NGO Forum was held on March 29, 1999 at the Holiday Inn, Clark Field, Angeles City. Aside from opening an avenue for a healthy sharing of innovative approaches and technologies, the conference was an opportunity to orient many of the NGOs in Central Luzon about the DOH-JICA FP/MCH Project.

Participants consisted of executives and senior management staff of selected NGOs, government agencies in the region, such as the DOH, the Commission on Population (POPCOM), and the Department of the Interior and Local Government (DILG), JICA experts and project officers and the JOCV Senior Officer.

During this forum, Dr. Suketaka IWANAGA oriented the participants on ways to access various types of Japanese assistance. This was followed by a series of presentations of innovative strategies and new approaches utilized by some NGOs in implementing their programs. Through this forum, the participants gained insignts on strategies that can be adopted or replicated in their respective areas of operation.



2.8 Project Visitors

This year, the Project welcomed 40 different batches of visitors and observers to Tarlac and other project sites in Region III. Most of these visitors wanted to learn more about the Project and observe its activities, particularly at the grassroots level. Visitors included official missions, student groups, researchers and representatives from NGOs and universities.

Among the official missions welcomed by the Project were: participants in the JICA Prospective Experts Training Course for Primary Health Care, the Third Party Evaluation Team for the FP/MCH Project dispatched by the Ministry of Foreign Affairs, Japan, the JICA Philippine Country Study Team, a representative from the Johns Hopkins University-Population Communication Services, the UNFPA Evaluation Team, and members of the JICA Grant Aid

Mission.

As for study tours, several student groups came to observe the Project's field activities. These groups included students from: the Osaka Christian College, Kyoto University, University of Tokyo, as well as students from various universities participating in the fieldwork in International Health Cooperation supported by the Sasakawa Memorial Health Foundation.

The Project was also visited by representatives from NGOs, such as: the Association of Medical Doctors of Asia (AMDA), the Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP), the Kamogawa International Organization, the Hiroshima NGO College, and the David and Lucile Packard Foundation.



Students from the Osaka Christian College

1998 Annual Report

=

ANNEXES

_

Annex I

THE MINUTES OF THE MEETING BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES ON THE PHASE II OF THE FAMILY PLANNING AND MATERNAL AND CHILD HEALTH PROJECT

The Japanese Advisory Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Toshitaka Nakahara, visited the Republic of the Philippines from August 25 to September 4, 1998, for the purpose of reviewing the activities concerning the Phase II of the Family Planning and Maternal and Child Health Project, and discussing the future implementation plan of the Project.

During its stay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Philippine authorities concerned about the activities and implementation of the Project.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Manila, September 3, 1998

中原、俊隆

TOSIHITAKA NAKAHARA, MD, MPH, PhD Leader, The Advisory Team Japan International Cooperation Agency Japan

ANTONIO S. LOPEZ, MD, MPII Undersecretary Office for Public Health Services Department of Health The Republic of the Philippines

1998 Annual Report

ATTACHED DOCUMENT

SUMMARY OF DISCUSSIONS:

A. Both sides confirmed the implementation of the following activities for the Phase II project.

1. Preliminary activity: Setting up of a new Project Office in Bataan

The JICA Project Office in Balanga, Bataan was inaugurated on July 31, 1998.

- 2. Conduct of survey, monitoring and evaluation activities :
 - 2.1 Building a data base at the Regional Health Office, consisting of relevant information on each of the provinces in the region:
 Gathering/compiling of available data to create provincial data bases has been started. These baseline data will serve as essential inputs to project monitoring and evaluation activities.
 - 2.2 Conduct of evaluation studies for TV 99 (Video Showing) and Teatro 99 (Puppet Show): Evaluation studies on the two project activities have been completed.
- 3. Implementation of a training/re-training program for health workers:
 - 3.1 Counterpart Training in Japan on Family Planning/Maternal and Child Health (FP/MCH) and Information, Education and Communication (IEC)
 - 3.2 Conduct of local training on Interpersonal Communication Skills, MCH Refresher Course, Under Five Clinic Program and IEC
 - 3.3 Mutual exchange of information with other health workers through JICA's Technical Exchange Program and other local exchange programs
- 4. Upgrade of facilities and equipment:

Provision of medical equipment particularly to field health units (Rural Health Units and Barangay Health Stations), as well as the provision of IEC equipment to Provincial and Regional Health Offices and the Public Information and Health Education Service of the Department of Health (DOH)

- 5. Conduct of health-related community partnership activities, namely:
 - 5.1 Community Drug Insurance Program which has expanded to Zambales, Pampanga and Bulacan
 - 5.2 Health Advocacy Activities, such as:
 - 5.2.1 TV 99 the regular community film showing activity in Tarlac
 - 5.2.2 Teatro 99 Puppet Theater presentations in schools and communities
- 6. Development, production and dissemination of IEC Materials:
 - 6.1 Development and production of print materials, such as: the 1998 Calendar, MCH Manual for Barangay Health Workers (BHWs), MCH Record Book for Mothers, HealthLine Magazine and reprinting of the MCH/FP Mini-Library developed during Phase I
 - 6.2 Production of video materials, such as the Adolescence Video on Menarche, TV 99 Series on Dengue Fever, Documentaries on the Tarlac Center for Mother and Child as well as the Teatro 99

- 7. Provision of technical assistance to Local Government Units (LGUs) and Non-Governmental Organizations (NGOs) regarding other Japanese Official Development Assistance (ODA) Schemes, such as:
 - 7.1 Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)
 - 7.2 General Grant Aid Program for Region III
 - 7.3 Multi-Bilateral Cooperation with the United Nations Population Fund (UNFPA)
 - 7.4 Grant Assistance for Grassroots Projects
- B. Both sides confirmed the conduct of the following activities for the coming years of the Phase II Project:
 - Survey, monitoring and evaluation: Regular updating of the provincial profiles/data bases from the results of project monitoring activities, continuous survey and evaluation activities
 - 2. Training/re-training program for health workers:
 - 2.1 Conduct of a capability-building program for barangay health workers and midwives
 - 2.2 Tapping educational institutions in the region for this purpose
 - 2.2.1 University of Regina Carmeli (Malolos, Bulacan) for the conduct of a Capability-Building Program for BHWs and Midwives
 - 2.2.2 Wesleyan University (Cabanatuan City, Nueva Ecija) for the conduct of a Capability-Building Program for Midwives

 Upgrade of facilities and equipment: Provision of additional medical and IEC equipment needed by health workers to perform their functions more effectively

Community participation activities:
 Cooperation with more NGOs in Region III for the conduct of various health-related community activities

5. Development, production and dissemination of IEC materials: The Project will continue to develop print and audio-visual materials in cooperation with the DOH's Public Information and Health Education Service (PIHES)

- DOH's Public Information and Health Education Service (PIHES).
 - MCH Manual for BHWs Printing and subsequent fielding of the MCH Manual (in Tagalog) developed by the Project as training and reference guide for barangay health workers
- 5.2 MCH Record Book for Mothers

5.1

- Pilot-testing of the MCH Record Book for Mothers in selected health facilities 5.3 MCH/FP Mini-Library
 - Distribution of the MCH/FP Mini-Library to Rural Health Units (RHUs)
- 5.4 Development of an IEC video package for adolescents
- 5.5 Exploring new mass-based channels for dissemination of IEC materials, like student and community assemblies, and the use of mass media

1998 Annual Report

- C. Both sides confirmed the following new directions for the Phase II Project:
 - Expansion and strengthening of community partnerships for health and development in Region III through NGOs and People's Organizations (POs): The Project shall endeavor to forge partnerships with NGOs and POs within the Project area for the conduct of health and development programs at the grassroots level. The establishment of an NGO track, which seeks to organize the Project's working relationship with various NGOs and POs, is a step in this direction. The Project shall also encourage the technical exchange among various health workers from the DOH, LGUs, NGOs and POs in Region III to enhance each other's effectiveness in the pursuit of common development goals for the communities.
 - 2. Promotion of an Integrated Package-type Cooperation in Region III:

When the DOH initially proposed the conduct of the Phase II Project to JICA, one of its considerations was the development of Region III as a model area for cooperation with the Japanese Government. The choice of Central Luzon as a model area is quite logical since JICA has already started various cooperation schemes in the area and has, in fact, played a crucial role in the preparation of a master plan for the region's development program. The Phase II project shall spearhead the organization and integration of various Japanese ODA schemes into one cooperation package for Region III. This will heighten the complementarity of the schemes, thereby maximizing the utilization of available resources in the common pursuit of an improved FP/MCH status in the region. Apart from the project-type technical cooperation, this package will include the following:

- a. JOCV in the implementation of its Front Line Initiatives
- b. General Grant Aid Program for the "Upgrade of Facilities and Equipment in Selected Field Health Units in Region III"
- c. Grant Assistance for Grassroots Projects

The Project has also facilitated the application to avail of the following grants, which can subsequently be included in the cooperation package:

- d. Local Development Program Grant
- e. Grant Aid for Child Health
- 3. Promotion of understanding and participation among the Japanese and Filipino people through LGUs and NGOs:

The Project shall encourage the development of understanding and participation among the Japanese and Filipino people through LGUs and NGOs pursuing common development interests. Among the activities to be promoted are:

- a. The Overseas Technical Training Program of Hiroshima Prefecture
- b. Technical Exchange Visit of the Kamogawa (Municipality in Okayama Prefecture) International Organization
- 4. Pursuit of collaborative activities with other international agencies, such as:
 - a. UNFPA
 - b. United States Agency for International Development (USAID) and its cooperating agencies

ANNEX II List of Available Video Materials Produced by the Project

- TV 99 Series (Health Education and Information Videos):
- Cholera and other Diarrheal Diseases Produced: May 1995 Subject: Detection, Prevention and Cure of Cholera Running Time: 12 minutes
- 2 Pneumonia Produced: February 1996 Subject: Detection, Prevention and Cure of Pneumonia Running Time: 22 minutes
- 3 Nutrition Produced: January 1997 Subject: Proper Nutrition Running Time: 15 minutes
- Basic Hygiene
 Produced: March 1997
 Subject: Proper hygiene for individuals,
 homes and communities
 Running Time: 17 minutes
- 5 Safe Motherhood
 Produced: March 1997
 Subject: Care for Pregnant Women
 Running Time: 15 minutes
- 6 Dengue
 Produced: March 1998
 Subject: Detection and Prevention of
 Dengue
 Running Time: 15 minutes
- 7 Dental Health
 Produced: March 1999
 Subject: Proper Dental Care
 Running Time: 15 minutes

- Adolescent Video Series (first two videos completed in this series)
- Late Bloom
 Produced: March 1998
 Subject: Menarche (drama)
 Running Time: 30 minutes
 School: Philippine High School for the Arts
- Slow Motion
 Produced: December 1998
 Subject: Sexual Identity (drama)
 Running Time: 42 minutes
 School: University of Regina Carmeli

Video Documentaries

- Reaching Out Produced: January 1999
 Subject: DOH-JICA FP/MCH Project II Running time: 12 minutes
- Center for Mother and Child Produced: March 1998 Subject: Center for Mother and Child in Tarlac Running Time: 11 minutes and 40 seconds
- Teatro 99: Papet Show
 Produced: March 1998
 Subject: Puppet Show in Tarlac for Health
 Advocacy
 Running Time: 10 minutes and 47 seconds

baternal

h. Phorn

Includes ...

- · Home Based Mother's Record
- Under Five Clinic Growth Chart
- Under Five Clinic Treatment Card

This "Maternal and Child Health Record Book" is a compilation of existing health records for both mother and child as developed/prescribed by the Department of Health. There are two sections: the Mother's and the Child's. The Mother's section keeps track of the state of the mother's current pregnancy while the Child's section keeps track of the child's growth and development. Always bring this booklet when visiting the health center.

Name of Mother

Name of Child





HOME BASED MOTHER'S RECORD

		PANEL
BLOOD TYPE FAMILY SERIA	L NO	
NAME:ADDRESS:		
DATE TETANUS 1 2 TOXOID GIVEN		3
4	5	J
AGE: yrbelow 18	18-34	35+
HEIGHT: cm. below 14	5 cm. 145 cr	n. & above
	NO	YES (H)
3 CONSECUTIVE MISCARRIAGES	NO NO	YES
POST - PARTUM HEMORRHAGE	NO	YES (H)
TUBERCULOSIS (14+ DAYS OFCOUGH)	NO	YES
HEART DISEASE	NO	YES (H)
DIABETES	NO	YES (H)
BRONCHIAL ASTHMA	NO	YES (H)
GOITER	NÒ	YES
IODINE SUPPLEMENTATION IN HIGH RISK AREAS	NO	YES

PANEL 2

PRESENT PREGNANCY

	<u>,</u> ,						🖉- IMMED	DIATE REFE	RRAL TO H	OSPITAL
LMP: month day year	E	DC: mont	h	day_	year _		REFE	RRAL TO PI	HYSICIAN/R	NHU T
TRIMESTER	1ST		2ND				3RD			
AOG IN MONTHS	2 OR 3	4	5	6	7.	8		9		
DATE OF THIS VISIT										
VAGINAL BLEEDING (Y/N)										H
URINARY TRACT INFECTION (Y/N)										
WEIGHT IN KG.										
BLOOD PRESSURE										
BP 140/90 AND ABOVE (Y/N)										(H)
FEVER 39° AND ABOVE (Y/N)										
PALLOR (YN)										
Abnormal fundal height (y/n)			20 CMS.	21-24 CMS.	25-28 CMS.	28-30 CMS.		30-34CM5). ,	$\left \left(H \right) \right $
ABNORMAL PRESENTATION (Y/N)										H
MISSING FETAL HEARTBEAT (Y/N)										(H)
EDEMA (Y/N)										
VAGINAL INFECTION (Y/N)										
LAB TEST RESULTS (e.g. HGB, URINE, VDRL)										

ACTION

TRIMESTER	1ST	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2ND		3RD	
IRON/FOLATE #/RX						
MALARIA PROPHYLAXIS (Y/N)						
MOTHER INTENDS TO BREASTFEED? (Y/N)						
ADVICE ON 4 DANGER SIGNS (Y/N)						
DENTAL CHECK-UP? (Y/N)						
EMERGENCY PLANS AND PLACE OF DELIVERY (Y/N)						
RISK? (Y/N)						
DATE OF NEXT VISIT						

LABOR & DELIVERY

IMMEDIATE BREASTFEEDING (Y/N)	BIRTH WEIGHT IN GRAMS	
TYPE OF DELIVERY	POST - PARTUM HEMORRHAGE 500 CC+ (Y/N)	
DATE OF DELIVERY	BABY ALIVE (Y/N)	
PLACE OF DELIVERY	BABY HEALTHY (Y/N)	

4 SIGNS OF DANGER DURING PREGNANCY:

- 1.) ANY TYPE OF VAGINAL BLEEDING
- 2.) PUFFINESS OF THE FACE AND HANDS
- 3.) HEADACHE, DIZZINESS, BLURRED VISION
- 4.) BEING PALE OR ANEMIC

MALARIA PROPHYLAXIS: CHLOROQUINE 150 mg base per tablet, 2 tablets per week

IRON FOLATE: 60 mg. tablet, 2 tablets daily for 125 days

REFERRAL:

PROBLE	MS IDENTIFIED AND (INDIC	ACTION TAKEN BY CATE DATE)	THE MIDWIFE	
		,		
(FINDINGS, ACTI	ONS TAKEN, AND IN	STRUCTIONS FROM	I REFERRAL CENT	ER)

POST PARTUM CARE:

Y = YES	6 N = NO	REFER TO	O HOSPITAL	III REFER	TO PHYSICIA	PANEL 4
TIMING OF POST-I	PARTUM VISIT		24 HOURS	1 WEEK	2-4 WEEKS	CLINIC VISIT
DATE OF VISIT						
EXCLUSIVE BREAS	TFEEDING (Y/N)		·			
INTENDS TO USE FA	AMILY PLANNING (Y/N)					
FEVER > 39°C (Y/N)						
FOUL SMELLING VA	GINAL DISCHARGE (Y/N	۱)				
EXCESSIVE BLEED	ING (Y/N)					
PALLOR (Y/N)						
CORD OK? (Y/N)						
		FOLATE DATE/	* LY PLANN	ling		
	DATE OF FOLLOW-UP	DATE OF VISIT	METHOD	QUANTITY GNEN	REMARK	(S:
			ļ			
				BREASTFEED YOUR BABY MORE THAN APART WILL I HEALTH AND	SPACING B 24 MONTHS ENSURE YO	irths Ur

- 117 -

.

YOUR CHILDREN.



UNDER FIVE CLINIC GROWTH CHART

DEPARTMENT OF HEALTH

CLINIC BARANGAY FAMILY NO.				CHILD'S NO.		
CHILD'S NAME						
·				BOY/GIRL		
MOTHER'S NAME EDUCATIONAL LEVEL OCCUPATION		.*				
DATE FIRST SEEN	BIRT	HDATE		BIRTHWEIGH	IT	
	PLA		IVERY	L		
COMPLETE ADDRESS	OF TH	E FAMILY (I	HOUSE No. S	STREET, CITY/PRO	VINCE)	
	BROT	HERS AND	SISTERS	3		
DATE OF BIRTH		BOY/GIF	۹L.	STATE OF HEALTH		
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	DAT	TE OF IMMUN	IZATION			
	1	2	3	4	5	
BCG						
HEPATITIS B				*		
DPT				*	*	
POLIO				*	*	
MEASLES		ار				
TETANUS TOXOID (FOR MOTHER)				enemetra Vieni, žentajónisti, jezzi, 201		







UNDER FIVE CLINIC TREATMENT CARD DEPARTMENT OF HEALTH

	WEIGHT IN	SYMPTOMS AND THEIR	TREATMENT GIVEN OR	HEALTHWORKER'S
DATE	KILOS	DURATION	REFERRED TO	SIGNATURE
<u></u>				
·····				
				· .
		·····		
		ал, на пара на р. с. р. с. р. с. <mark>р</mark> . с. раз на вели на пара на пара на раз на село на пара на село на село на п		
	X			
<u></u>				

DATE	WEIGHT IN KILOS	SYMPTOMS AND THEIR DURATION	TREATMENT GIVEN OR REFERRED TO	HEALTHWORKER'S SIGNATURE
			,	
		******		an da gangan a sa ka finis a sa ka ma

·	<u></u>			
		·		
	<u></u>	- <u> </u>		atri firmanya wangana mananya kanya waka na ana ana ana ana ana ana ana ana a
· · · ·				
·				
			·····	
			·	
ii				
<i></i>				
				~
v i	•			
M <u>aan da at ang ang ang ang ang a</u> ng di		<u></u>	Ar Christen ann an San Air a Christe an San Anna Anna Anna Anna Anna Anna An	
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

DATE	WEIGHT IN . KILOS	SYMPTOMS AND THEIR DURATION	TREATMENT GIVEN OR REFERRED TO	HEALTHWORKER'S SIGNATURE
	epine warmen de appleale par product des mensions anno de appleale de tab			
<u> </u>				
				<u> </u>
	an a		<u> </u>	<u></u>
				۵۰۰۰۰۰۰ ۲۹۷۹ ۲۹۷۹ ۲۹۷۹ ۲۹۹۹ ۲۹۹۹ ۲۹۹۹ ۲۹۹

HOW TO PREVENT DENGUE H-FEVER

 Itapon and mga lumang gulong, lata, plastik na lalagyan, bote at iba pang mga lalagyang maaaring pangitlugan ng lamok kapag naipunan ng tubig.



 Takpan ng maigi ang mga drum, timba at iba pang ipunan ng tubig upang di pangitlugan ng lamok



Takpan ng maigi ang mga lalagyan ng tubig





Linisin at kuskusin ang mga gilid ng lalagyan ng tubig minsan sa isang linggo. Ang mga itlog ng lamok ay kumakapit sa mga gilid nito Linisin nang regular ang mga alulod ng bahay upang hindi maipunan ng tubig ulan at pamahayan ng lamok



 Maglagay ng screen sa mga bintana at pinto at gumamit ng kulambo na "insecticide treated" sa pagtulog



• Kung inaakalang may dengue ang may sakit, dalhin siya sa pinakamalapit na ospital



HOW TO CARE FOR A CHILD WITH COUGH

IF YOUR CHILD HAS COUGH

- PROTECT HIM/HER FROM CHILLING
- CONTINUE FEEDING
- CLEAN HIS/HER NOSE
- GIVE EXTRA FLUIDS TO DRINK
- SOOTHE THROAT AND RELIEVE COUGH WITH WARM KALAMANSI JUICE OR HERBAL DRINK

WATCH OUT FOR DANGER SIGNS OF PNEUMONIA SUCH AS:

- FAST BREATHING
- DIFFICULT BREATHING

BRING IMMEDIATELY TO THE HEALTH CENTER IF THERE ARE DANGER SIGNS.

IF YOU HAVE A WATCH, YOU CAN COUNT YOUR CHILD'S BREATHING IN ONE MINUTE. DO THIS WHEN HE/SHE IS ASLEEP OR CALM.

THERE IS FAST BREATHING IF:

- 1) A BABY LESS THAN 2 MONTHS OLD BREATHES MORE THAN 60 BREATHS PER MINUTE.
- 2) AN INFANT 2 MONTHS 12 MONTHS OLD BREATHES MORE THAN 50 BREATHS PER MINUTE.
- 3) A CHILD 1 YEAR 5 YEARS OLD BREATHES MORE THAN 40 BREATHS PER MINUTE.

REMEMBER TO COUNT FOR ONE FULL MINUTE WHEN CHILD IS CALM.

CARE FOR TEETH AND GUMS

- 1. Eat good food such as vegetables, fruits, fish and eggs. Avoid sweets especially between meals.
- 2. Develop good habits such as:
 - (a) Toothbrushing within 30 minutes after every meal
 - (b) Gargling after each meal including snacks.
 - (c) Visiting your dentist regularly for routine check up starting at 2 years old.

HOW TO BRUSH TEETH CORRECTLY: TOOTHBRUSHING TECHNIQUE



1 BRUSH OUTER SURFACES OF UPPER TEETH BEGINNING FROM THE GUMS DOWNWARD



5 BRUSH CHEWING SURFACES OF UPPER TEETH TO AND FRO



2 BRUSH OTHER SURFACES OF LOWER TEETH, BEGINNING FROM THE GUMS UPWARD



6 BRUSH CHEWING SURFACES OF LOWER TEETH TO AND FRO



3 BRUSH INNER SURFACES OF UPPER TEETH, BEGINNING FROM THE GUMS DOWNWARD



7 BRUSH THE TONGUE



4 BRUSH INNER SURFACES OF LOWER TEETH, BEGINNING FROM THE GUMS



8 AFTER BRUSHING, USE DENTAL FLOSS OR A CLEAN THREAD TO CLEAN PARTICLES BETWEEN THE TEETH

FEEDING YOUR BABY

BABIES GIVEN MOTHER'S MILK ARE HEALTHIER AND GROW FASTER. BOTTLEFED BABIES MAY DEVELOP DIARRHEA OR BECOME TOO FAT.

HOW TO BREASTFEED SUCCESSFULLY:

- BREASTFEED IMMEDIATELY AFTER DELIVERY
- GIVE THE YELLOWISH FIRST MILK CALLED "COLUSTRUM". IT HELPS
 PREVENT INFECTION.
- DO NOT GIVE OTHE'R FLUIDS OR FOODS EXCEPT BREASTMILK FOR THE FIRST 4-6 MONTHS OF LIFE. BOTTLED MILK, JUICE OR WATER MAY CAUSE DIARRHEA.
- CONTINUE BREASTFEEDING AS LONG AS THERE IS MILK.

WHEN INTRODUCING OTHER FOODS...

- GIVE ONE FOOD AT AT TIME BEGINNING AT 4TH OR 6TH MONTH
- GIVE FRESHLY PREPARED WELL MASHED FOOD SUCH AS BOILED VEGETABLES, FRUIT AND FISH
- GIVE CAREFULLY SELECTED MIXES OF MANY NUTRITIOUS FOODS

AD 1-2 TSP. VEGETABLE OIL WITH EVERY SERVING. GIVE VITAMIN AND IRON SUPPLEMENTS.

MANAGEMENT OF DIARRHEA AT HOME

AS SOON AS DIARRHEA STARTS....

- Give "Am", soups and other fluids
- Continue breastfeeding
- Give other foods 6 or more times a day
- Give potassium-rich foods such as bananas

IF DIARRHEA DOES NOT IMPROVE....

- Bring child to health worker
- Give ORESOL when advised

How to Prepare ORESOL:

Dissolve one whole packet of ORESOL





in one liter of clean water

How to give ORESOL:

- · For children less than 2 years old, give 1/4 cup to 1/2 cups after each diarrhea
- For children 2 to 10 years old, give 1/2 cups to 1 cups after each diarrhea
- For older children, give as much as desired. If child vomits, wait 10 minutes. Then continue giving the solution more slowly - 1 teaspoon every 2-3 minutes.